

画 情 義 報

2005年度

講 義 計 画

桃山学院大学

画

十

表

證

科 目 名			
アジア経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	厳 善 平

【講義概要・学習目標】

1 国の経済には成長期もあれば衰退期もある。成長期といえどもその過程は一直線ではない。成長率が著しく高いこともあれば、これが急降下することもある。アジアはそういう変動を貫いて力強いエネルギーを発揚する「歴史的勃興期」の直中にある。本書は、アジアの経済発展の50年を振り返りながら、各国がどのような道筋をたどって現在を築いたのか、その論理を説いたものである。経済学の基礎知識をもたない学生を開発経済学の世界に招待する。(教科書のはしがきより)

【講義計画】

教科書の目次

- 第1章 「マルサスの罠」―貧困のメカニズムを探る
- 第2章 人口転換―アジアは人口問題を解決しつつある
- 第3章 「緑の革命」―農業の技術進歩はいかにしておこるか
- 第4章 工業発展Ⅰ―工業化はいかにして開始されるか
- 第5章 工業発展Ⅱ―初期条件と工業化政策
- 第6章 貿易と海外直接投資―アジアを興隆させたもの
- 第7章 社会主義経済から市場経済へ―中国における体制転換の実験
- 第8章 政府開発援助―自助努力支援の旗を高く掲げよ
- 第9章 アジア経済危機とはなんであったか―高成長戦略の転換
- 第10章 アジア経済の新動態―「アジア化するアジア」

【成績評価の方法】

中間レポート、期末試験の成績で評価する。

【教科書】

渡辺利夫『開発経済学入門(第2版)』東洋経済新報社 2004年

【参考文献】

随時配布

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
アジア文化研究―イスラームの過去と現在			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	今 澤 浩 二

【講義概要・学習目標】

現在、イスラーム教徒は14億人を超え、十数年後には世界人口の3分の1を占めるようになるとさえ言われる。イスラーム世界が現在の世界情勢に与える影響も大きくなっている。

本講では、まず、こうしたイスラーム世界がどのようにして興り発展してきたのかを、歴史を振り返りながら考える。次に、それをふまえて、現代のイスラーム情勢について考察を加える。

【講義計画】

第1部 イスラーム世界の過去

- (1) イスラーム世界の成立
- (2) イスラーム世界の発展
- (3) トルコ民族の活躍
- (4) オスマン帝国
- (5) サファヴィー朝とムガル帝国
- (6) イスラーム世界の植民地化
- (7) 第1次世界大戦後のイスラーム世界

第2部 イスラーム世界の現在

- (1) イスラーム「原理主義」
- (2) パレスチナ問題
- (3) イラク問題

【成績評価の方法】

授業中の小テスト、学期末試験。

【教科書】

なし。

【参考文献】

授業中に随時、紹介する。

科 目 名			
アジア文化研究－インドネシアの開発と人口			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

人口という観点からアジア、東南アジア、とくにインドネシアという地域を理解することをめざす。

インドネシアの社会と文化を理解するための重要な鍵は、開発の歴史と人口に関わる諸問題である。人口がインドネシア理解の鍵になる理由は、インドネシアが世界第4位の2億2千万という大きな人口を持つこと、それが不均等に分布し、とくにジャワ島の農村に滞留したことにある。

東南アジアは、モンスーンアジアという世界人口分布の中心にあるにもかかわらず、小人口世界である。そのなかでジャワ島は巨大人口を持つという複雑な構造がある。その生態学的な背景と人口増加のプロセスを考えてみよう。最後に現在のインドネシアの人口問題の核心であるジャワ島農村の貧困問題の動向を検討してみよう。

なお、視覚的理解のために適宜ビデオを用いる。なおまた、受講生はインドネシアに関する初歩的な知識（あるいは強い関心）のあることが望ましい。

【講義計画】

1. モンスーンアジアの中の東南アジア
2. 小人口世界としての東南アジア
3. 2000年国勢調査からみたインドネシア
4. ジャワの中心性－生態学的背景
5. ジャワ島の人口増加の歴史
6. 近年の動向－緑の革命とジャワ島農村の人口問題

【成績評価の方法】

期末テストおよび時々的小レポートを総合して評価する。

【教科書】

特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配付する。

【参考文献】

池端雪浦編『東南アジア史2島嶼部』山川出版社 1999
 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997
 坪内良博『小人口世界の人口誌』京都大学学術出版会 1998
 その他、授業の中で示す。

科 目 名			
アジア文化研究－韓国・朝鮮文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	青 野 正 明

【講義概要・学習目標】

近年、日韓の交流が盛んになり、さらに「韓流」ブームも到来したため、現代韓国に関心をもつ人たちが急激に増えている。そこで、この授業では現代韓国の理解に重点を置き、日本文化との比較にも配慮しながら、韓国・朝鮮文化一般を概説しよう。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、視覚資料の多い教材に画像やビデオも加え、画面を用いて説明していく。日韓の交流や相互理解のために必要な基礎知識を学び、さらに民族文化や民族アイデンティティについても考えていく、そんな講義にしたい。

【講義計画】

歴史 地理 宗教 言語 社会制度 風俗 集落と住居 衣服
 料理と酒 美術 音楽 北朝鮮事情 在日韓国・朝鮮人 歴史教科書問題

【成績評価の方法】

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。とくに受講態度の悪い者には厳しい評価をする。

【教科書】

金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社、1993年

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。プリント類も配布する。

科 目 名			
アジア文化研究－中国の知的遺産			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	串 田 久 治

【講義概要・学習目標】

漢詩でスローライフ

本講義は中国の知識人の生き様を通して、人生の悲哀を克服して心豊かに生きる方法を模索する授業です。

言うまでもなく、中国の知識人とは、官僚（政治家）であると同時に詩人であり、画家であり、文章家でもあります。彼らの多くは政治的挫折を経験し、あるいは家族の不幸に遭遇した時、何を思い何を考えたか、人生の悲しみ・苦しみをいかにして乗り越えて生を全うしたのかを知り、将来に資することがこの授業の目的です。

そのため、本講義はただ聞いているだけの講義ではありません。学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、学生諸君が数名のグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後に各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することになります。

【講義計画】

第一部 生きる悲しみ・苦しみ

- 1 「故郷」
- 2 出会いと別れ
- 3 「敗北」
- 4 「正義」

第二部 生きる喜び・楽しみ

- 1 恋と結婚
- 2 家族
- 3 飲食
- 4 四季
- 5 老いのよこび

【成績評価の方法】

出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価する。なお、レポートに関しては毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失う。

【教科書】

串田久治・諸田龍美著『ゆっくり楽に生きる 漢詩の知恵』（学研）定価1400円

【参考文献】

林語堂著『支那のユーモア』（岩波新書）
 林語堂著『中国＝文化と思想』（講談社学術文庫）
 串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』（中公新書）
 串田久治著『中国古代の「謠」と「予言」』（創文社）
 串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
 KUSHIDA'S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>

科 目 名			
アジア文化史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	原 山 煌

【講義概要・学習目標】

北アジア世界に興亡した騎馬遊牧民のありようを多角的に考察する。騎馬遊牧民の暮らしのあらまし、騎馬や遊牧の起源、内陸アジアにおける騎馬遊牧民の歴史的展開、さらには、現在注目され始めている、自然に負荷を与えることが極めて少ない遊牧という生業の新しい意義など、私たちにあって、考えるべきテーマは多い。

【講義計画】

1. 騎馬遊牧民の暮らし
2. 遊牧の起源と展開
3. 北アジアの騎馬遊牧民国家の歴史
4. 遊牧の現在と未来

【成績評価の方法】

毎回授業終了前に小テストを行い、出席状況と理解度を確認する。その結果と期末の試験によって総合的に評価を行なう。

【教科書】

随時参考資料を配布する。

【参考文献】

松川節『モンゴル歴史紀行』ふくろうの本 河出書房新社。
 護雅夫・神田信夫編『北アジア史』山川出版社。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
アメリカ経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	中 本 悟

【講義概要・学習目標】

現代の世界経済が、グローバリゼーションという歴史的な転換期を経過していることは誰しも認める事実である。現在進行中のこのグローバリゼーションは、多分にアメリカのグローバリズムに規定するアメリカ経済の内部構造・政策と対されている。本講義では、アメリカン・グローバリズムを規定する内部経済構造・政策および対外的な経済関係・政策とを検討する。これによって、われわれが直面しているグローバリゼーションを理解し、また「グローバリゼーションの成果を市民の手に」という重要な課題に対する構想も生まれると思われる。

講義は、日米比較をできる限り取り入れ、分かりやすい講義を目指す。

【講義計画】

以下の主要な問題領域を、何回かに分けて講義する。

- 1 産業構造と企業経営
- 2 株主資本主義とコーポレート・ガバナンス
- 3 労働市場の変遷とそのインパクト
- 4 アメリカ型金融システムと証券資本主義
- 5 連邦政府財政と財政政策
- 6 政府規制とイノベーション
- 7 所得格差の長期的変化
- 8 多国籍企業と通商政策
- 9 国際金融システム不安とドル本位制
- 10 グローバリゼーションとパックスアメリカナの再編

【成績評価の方法】

講義の後で時に書いてもらうコメント(平常点)と年度末のペーパー試験の成績とを総合して評定する。

【教科書】

追って指示する。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

科 目 名			
アメリカの演劇―名作にふれる			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	金 城 盛 紀

【講義概要・学習目標】

アメリカ演劇の名作をいくつか取り上げ、その「名場面」を原文で読み、全体をビデオで鑑賞し、討論する。異国の歴史に残る作品が、現在の日本で観ても面白く意味があることが解かってもらえれば素晴らしい。

【講義計画】

ワイルダー『わが町』、ウィリアムズ『ガラスの動物園』、ミラー『セールスマンの死』、オールビー『ヴァージニア・ウルフなんかこわくない』などの代表作を対象としたいが、受講生の反応によっては変更も辞さない。

【成績評価の方法】

平常点とレポート。

【教科書】

プリントを用意する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
アメリカの小説－無垢を装う悪と人種差別			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	佐々木 英 哲

【講義概要・学習目標】

Melvilleの中短編集The Piazza Tales(1856)に収録されている小説“Benito Cereno”を取り上げる。主要登場人物は三人である。カトリック教国スペインの奴隷船の船長で、船は黒人奴隷に乗っ取られてしまい、自分は病的で弱々しく気難しい、ある意味で無垢で青年のような特質を併せ持つというのに、事情に疎いアメリカ人の前では白人としての威厳をちらつかせ船長としての面目をかりうじて繕い、何やら陰謀家めいて無気味な素振りさえ覗わせるCereno。白人主人Cerenoに対して従順でそれゆえ無垢な黒人奴隷を演じるが、その演技が些か仰々しい余り、グロテスクな感さえ漂わせる反乱主魁Babo。アメリカ船の船長で、民主主義という建国理念と矛盾する奴隷制度を内に抱え込んだピューリタンの国に生まれながら、奴隷制度にまつわる事情におめでたいくらい無知で青い「無垢」なDelano。ここでアメリカ社会、アメリカ文学を考える上で避けて通ることのできない人種問題の側面から作品を読む。典型的黒人、典型的旧世界白人という類型（ステロタイプ）枠を擦り抜ける、或いは類型を超えたレベルで生じる白人主人側および黒人奴隷側双方の意識とは、どんなものか。奴隷制を制度として存続することを可能にしている論理の背後に、どのような屈折した人間の心理が蠢いているのか。奴隷問題は人種（黒人）レベルに限定できるか。Delanoが船長を務めるアメリカ船の名は「独身者の喜び」号であるが、この船名はフェミニズムの観点からしても興味をそそられる。「独身者の喜び」は人種（黒人）にどう関わってくるのか。よく指摘される「アメリカ的」無垢の問題が作品にあるとすれば、どこに検証できるか。無垢は悪の免罪符か。それとも無垢は悪そのものか。

【講義計画】

マクロ（巨視）的読み、ミクロ（微視）的読みという両面から作品を攻めていく。前者の攻略法はストーリー展開とその連続性・非連続性、人物造型における一貫性・矛盾などを理解するために援用する戦略である。後者の攻略法はいわゆる精読という正攻法で、この方法により書かれている英語表現を正確に理解し、行間を読むレベルまで進み、作者が言い淀んでいる部分にまで立ち入ってみたい。時間が限られていることに考慮し、精読する箇所をこちらからあらかじめ指定しておくので、受講者はその箇所を下読みしたうえで授業に臨む。なお本講座では希望者を募る形式のレポーター制をとる。レポーターはレジュメを用意し、担当箇所のアウトラインを明示し、キー・ワード（フレーズ）、キー・センテンスなどを手がかりに、問題点を指摘し作品解釈を試みる。またレポーターには必要に応じて史的背景なども調べてもらう。あわせてレポーターは作業の最中に会った読みづらい英語表現を指摘してほしい。日本人研究者による注釈入りのテキストではないので、英文として難解な箇所があって当然である。こちらから授業時にフォローしたい。

【成績評価の方法】

予習にかかわる範囲で毎回始業時に小テストを行い、それをもって出席確認に代える。学期末にレポート提出。

【教科書】

Herman Melville. The Piazza Tales and Other Prose Pieces 1839-1860. Evanston: Northwestern UP.
上記テキストからのコピー使用。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
アメリカ文学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	佐々木 英 哲

【講義概要・学習目標】

作家及びその文学作品を取り巻く社会的・文化的状況、時代精神までを射程範囲に収めたうえで、アメリカ文学を通史的に概観することが本講義の目的である。アメリカ文学を俯瞰するという作業は多くの受講生にとって初めてのはずである。その意味から授業は必然的に導入的意味合いが強くなる。しかしながら担当者としては、単に一方的講義による作家・作品解説に終始する授業にはしたくないと思っている。アメリカ文学史を支える屋台骨と「見なされてきた」主要作家の手による代表的な作品――近年、文学史に於けるその評価の正当性が根幹から問われているという事実は、受講生が導入レベルにある事実を踏まえ、この際、さほど重要視しないことにする――を読み返しつつ、それらの文学的主題を再検証する作業を行う。その他の作家・作品については、担当者による解説で補うものとする。

【講義計画】

目安として、前半では植民地時代から南北戦争までの文学を、後半では南北戦争後から第2次大戦を経た今日に至るまでの文学を扱う予定でいる。主に次の人物・作品を取り上げる予定。

Jonathan Edwards

Thomas Jefferson

James Fenimore Cooper (The Pioneers)

Ralph Waldo Emerson (“Self-Reliance”)

Henry David Thoreau (Walden)

Emily Dickinson

Nathaniel Hawthorne (The Scarlet Letter)

Herman Melville (Moby-Dick)

Walt Whitman (Leaves of Grass)

Harriett Beecher Stowe (Uncle Tom’ s Cabin)

Mark Twain (The Adventures of Huckleberry Finn)

Stephen Crane (Maggie: A Girl of the Streets)

Henry James (The Wings of the Dove)

Edith Wharton (The House of Mirth)

Scott Fitzgerald (The Great Gatsby)

Ernest Hemingway (The Old Man and the Sea)

William Faulkner (Absalom, Absalom!)

Ralph Waldo Ellison (The Invisible Man)

Thomas Pynchon (The Crying of Lot 49)

【成績評価の方法】

予習・復習にかかわる範囲で毎回始業時に小テストを行い、それをもって出席確認に代える。毎回、小テストをするので学期末にはテストは行わず、レポートを提出してもらうつもりでいる。

【教科書】

プリントを配布するかまたはインターネット利用によるe-textを指示する。

科 目 名			
アメリカ文化研究－アメリカン・ドリーム (旧アメリカ文化研究)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	谷 本 泰 三

【講義概要・学習目標】

何もないように見えていた新大陸にヨーロッパから移民たちが渡った時から、せいぜい300年くらいの間にヨーロッパ諸国に伍して世界をリードする超大国を作り上げたアメリカ人とは一体何なのか。アメリカ人はどのようにしてアメリカ人になったのか。そのエネルギーの本質はどのようなものなのか。アメリカには文化というにふさわしいものがあるのか。このような問題をアメリカに夢と悪夢というテーマに絞って考えてみる。文学作品にも触れてみる。春学期の終わるか秋学期の始めにゲスト講師を招待、アメリカの民謡やフォークソングについての講義を聴く機会を持ちたいと考えている。

【講義計画】

- 1－7 アメリカ革命と独立
- 8－12 西部開拓
- 13－23 宗教：アメリカ文化の根底
- 24 まとめ

【成績評価の方法】

クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。
期末試験またはレポート。

【教科書】

Henry B. Parkes 著 *The American Experience* 研究社出版

科 目 名			
医学一般			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	郭 麗 月

【講義概要・学習目標】

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。
- 2 臨床医学ノ各分野ノ概要について理解させる。
- 3 医学的リハビリテーションノ概要について理解させる。
- 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。
- 5 公衆衛生の概要を理解させる。
- 6 保健医療対策の概要を理解させる。
- 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
- 8 社会福祉士に必要な内容について理解させる。

【講義計画】

- 1 人体の構造・機能
- 2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
- 3 医学的リハビリテーションの概要
- 4 現代社会と疾患
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) 神経・精神疾患
 - 4) 先天性疾患
 - 5) 難病
 - 6) その他
- 5 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 6 保健医療対策の現状
- 7 医事法事と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連帯のあり方

【成績評価の方法】

レポート、定期試験の成績で評価する。

【教科書】

(福祉士養成講座編集委員会編)
『社会福祉士養成講座13「医学一般」』 (中央法規)

【参考文献】

適時紹介する。

科 目 名			
イギリスの演劇－シェイクスピア入門Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	宮之原 匡 子

【講義概要・学習目標】

シェイクスピアの作品には時代を超え、人に共感・感動を与える力があり、全世界のどこかで彼の作品が上演されている。

この講義では、『十二夜』を取り上げる。この作品はシェイクスピアの“romantic comedies”の最高傑作の一つとされているが、ある種の黒い影を帯びている作品でもある。

『十二夜』の名場面を読み、映像（映画・舞台）を鑑賞する。本来俳優が上演するものとして執筆された演劇の、読んだだけではわからない面白さを実感し、少しでもシェイクスピアに親しんでもらいたい。

【講義計画】

1. イギリス演劇について（概論）
2. 『十二夜』を読む。
3. 映画・舞台映像を鑑賞する。

【成績評価の方法】

小レポート提出（作品の予習）・平常点（出席状況・文献読了の積極性等）・レポート提出（学期末）の総合評価

【教科書】

Scenes From Shakespeare Ⅱ（英宝社）
他、プリントを準備する。

【参考文献】

シェイクスピア全集〈ちくま文庫〉松岡和子訳 筑摩書房〈6〉
『十二夜』
他、授業で紹介する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
イギリスの詩－初めて読むイギリスの詩			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	金 城 盛 紀

【講義概要・学習目標】

初めて英語の詩を読む英文科学生のための入門科目。

英文学の精髓は詩にある、といわれてもピンとこない。英語は学びたいが、詩は関係ないし、難しい。でも、ビートルズもシェイクスピアも詩である。ジャズもロックも詩なのだ。古今の名作からできるだけ平易で、喜怒哀楽など身近なテーマを扱ったのを取り上げる。名優たちの朗読もテープで聴く。面白いと実感してもらえれば本望。

【講義計画】

シェイクスピアから現代まで読みたいが、難易度やテーマは受講生の反応も見ても柔軟に調節する。

【成績評価の方法】

平常点とレポート。

【教科書】

平井正穂編『イギリス名詩』岩波文庫

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
イギリス文学史 (旧イギリス文学史Ⅰ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	岡 田 章 子

【講義概要・学習目標】

イギリス文学は後世に伝わっているものでも7－8世紀の作と推定されるBeowulfに始まり、半職業的な語り手によって口から口へと伝えられたもののようである。やがて1066年にノーマン人の侵入があり、イギリス文化全体が一新された。これ以降の文学が真にイギリス文学と言えるものである。14世紀に入ってChaucerが登場し人間を描き出した。やがて16世紀になるとShakespeareとともに詩、演劇の黄金時代を迎える。その後小説の勃興となりそれ以降文学のあらゆるジャンルで栄え多様な時代となった。20世紀になると人間の心も複雑で難しい作品も多い。

本講義では英文で書かれた文学史を読みながら、イギリス文学発生の時代から現代に至るまで時代順に主要作品を取り上げて、その社会背景も考察しながら、イギリス文学の流れを把握できるようにしたい。学生は多くの読書が必要で、授業にきちんと出席することが必須である。

【講義計画】

1. 古代英語・中世英語の文学
2. ルネサンス期の文学
3. ピューリタンの文学
4. 小説の誕生と成長
5. ロマン主義時代
6. ビクトリア文学
7. 第二次大戦までの文学
8. 戦後の文学

【成績評価の方法】

期末テストと平常点

【教科書】

An Outline of English Literature. By G. C. Thornley and Gwyneth Roberts. Longman, 英潮社(原書のみ)

【参考文献】

Norton Anthology

科 目 名			
イタリア語Ⅰa			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	啜 絵 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。

【講義計画】

＜春学期＞

1. イタリア語の発音
2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念
3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現

＜秋学期＞

1. 補助動詞・不規則動詞・代名詞
2. 過去の表現(近過去・半過去)
3. さまざまな日常会話表現
4. 初歩的な読解(2)

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。年に数回の筆記試験や口頭試問を授業中に行う。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

武田 好・横山 千里著『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』。また、次の辞書を必ず授業に持ってくる。小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円)または、小学館『伊和中辞典』(定価6600円)でもよい。

科 目 名			
イタリア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	和 栗 珠 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】

【春学期】

1. イタリア語の発音、性数の概念
2. 規則動詞、名詞、形容詞
3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習

【秋学期】

1. 不規則動詞、補助動詞
2. 目的語人称代名詞
3. 過去の表現1:近過去
4. 再帰動詞
5. 過去の表現2:半過去

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に4回の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)

教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケット プログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』(創拓社)

科 目 名			
イタリア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	啜 絵 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。

【講義計画】

＜春学期＞

1. イタリア語の発音
2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念
3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現

＜秋学期＞

1. 補助動詞・不規則動詞・代名詞
2. 過去の表現(近過去・半過去)
3. さまざまな日常会話表現
4. 初歩的な読解(2)

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。年に数回の筆記試験や口頭試問を授業中に行う。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

武田 好・横山 千里著『Andiamo in Italia!(アンディアアーモ・イン・イタリア)』。また、次の辞書を必ず授業に持ってくる。小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円)または、小学館『伊和中辞典』(定価6600円)でもよい。

科 目 名			
イタリア語Ⅰb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	和 栗 珠 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】

【春学期】

1. イタリア語の発音、性数の概念
2. 規則動詞、名詞、形容詞
3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習

【秋学期】

1. 不規則動詞、補助動詞
2. 目的語人称代名詞
3. 過去の表現1:近過去
4. 再帰動詞
5. 過去の表現2:半過去

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に4回の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』(初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する)
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケット プログレッシブ伊和・和伊辞典』(小学館)を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』(創拓社)

科 目 名			
イタリア語Ⅱa			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	鳥 居 正 雄

【講義概要・学習目標】

Ⅱを履修する殆どの諸君が、Ⅰの内容がまったく身につけていないので動詞の変化を中心に練習問題を使った演習を、プリントを使ってみっちりやります。会話も基本的には作文なので、文章が一通り作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続することが大事なので毎時間必ず出席すること、毎回の予習、復習が最低条件です。学生は授業に出席するのが当然なので、出席するだけでは単位は与えません。演習をやって初めて単位がどうこうという話になります。当大学では、授業開始時間に出席している学生は3割程度なので、それ以外の欠席や遅刻が目にするような諸君には単位は出ないと考えてください。aクラスだけ出席してbクラスは出席しないとか、再履修だからという理由で出席しない怠け者の諸君や、授業中に携帯で遊んだり寝たりするような集中力の無い諸君や、常習的に遅刻する諸君には単位は出せません。

【講義計画】

『前期』

単元毎の文法説明を行います。必要に応じてプリントを使います。各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。時間が許せば映画や音楽を鑑賞し、それらを通してイタリア的な感性に対する理解を養います。

『後期』

日常的な表現が身につくようプリントを使った演習を徹底的にやります。ヒアリングの機会を増やして発音とアクセントの正確さを高めます。時間が許せばカンツォーネやオペラを鑑賞し、それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。

【成績評価の方法】

一月に一回ぐらい渡す宿題の練習問題の点数と、期末のテストとレポートの点数、それに授業中の問題に対する答えの出来ぐあいを総合して評価します。

【教科書】

プリントを使います。演習をするので、辞書は本棚に飾って置かないで、毎時間必ず持ってくる。

【参考文献】

どのような分野でも良いので、イタリアに関する自分の関心のある分野の本を図書館や書店で出来るだけたくさん読むこと。

科 目 名			
イタリア語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	嘸 絵 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語Iで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがIIでの課題である。実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Iと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文書を読んだり書いたりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。文法等の教科書は使用せず、プリントを活用して、多面的にイタリア語に取り組んでもらう。

【講義計画】

〈春学期〉 イタリア語の構造のまとめ

1. イタリア語Iの復習と実践練習
2. 様々な過去時制(半過去・大過去)

〈秋学期〉 表現力と実践的運用力の充実

1. 未来形と条件法
2. 命令法
3. 演習

【成績評価の方法】

平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

教科書は使用しないが、次のいずれかの辞書を必ず授業に持ってくる。小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円)小学館『伊和中辞典』(定価6600円)

科 目 名			
イタリア語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期 通期	2 2	米 山 喜 晟

【講義概要・学習目標】

一年生で学んだイタリア語の知識を土台にして、イタリア語の文法を最後まで仕上げるがこの授業の目的である。やはりせっかく大学で学んでいるのだから、イタリア語文法の全体像が見えるところまで、また一応イタリア語が使えるところまで、授業を進めたい。

【講義計画】

前半で教科書の11課までを終える。そこまでは一年生で学んだことの復習が大半の時間を占めるであろう。後半で、それ以後の部分、最後の21課まで進み、イタリア語文法を完了する。とにかく毎週の範囲の復習、予習を怠らないこと。一日最低一時間以上はイタリア語を声を張り上げて読み、例文と動詞の変化を暗記すること。全文を暗記すればイタリアで生活するのに困らない。一応イタリア語ができるはずだ。

【成績評価の方法】

2回の試験の成績の平均によって評価する。平均40点以上を取れば合格。60点以上はA。ボーダーライン上の点数は、出席点を加味する。

【教科書】

S. Kobayashi: Nuove Ventun Lezioni d' Italiano

【参考文献】

坂本鉄男著『イタリア語の入門』(白水社) その他一応きちんと叙述されているものなら何でも良いから、まともなイタリア語の文法書を一部常に手元において、授業を理解するための参考にすると同時に授業の進行に併せて読み進み、期末までに読み終えることが望ましい。そうすれば、さらにはっきりとしたイタリア語文法の全体像が把握できて、諸君の頭脳の中で、一生の財産となつて残るであろう。

科 目 名			
一般経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	富 澤 修 身

【講義概要・学習目標】

長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感じさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西欧諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の21世紀を考えると、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は、現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、18世紀の経済史、19世紀の経済史、20世紀の経済史について論じる。

【講義計画】

1. はじめに
2. 産業革命
 2. 1. イギリス産業革命
 2. 2. 後進国・地域の工業化
3. 18世紀の経済史
 3. 1. 間屋制経営
 3. 2. 協業
 3. 3. マニュファクチュア
4. 19世紀の経済史
 4. 1. 機械制大工業
 4. 2. 鉄道経営
5. 20世紀の経済史
 5. 1. 大企業の登場
 5. 2. 1930年代ニューディール
 5. 3. 戦後経済史

【成績評価の方法】

定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。受講者が少ない場合は変更の可能性有り。

【教科書】

富澤修身著『アメリカ南部の工業化』（創風社）

【参考文献】

なし

科 目 名			
一般経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	前 田 治 郎

【講義概要・学習目標】

人類史において、人間はその自然変革能力を高めてきた。とりわけ資本主義の成立以後、この発展は加速度を増し、今日の高い生産力にまで到達してきた。しかし他方、依然として地球上には飢餓人口が存在し、環境問題は猶予ならないほどに深刻化し、また人殺しのための兵器が科学技術の最先端を代表しているといった現実も忘れるべきではない。この講義の前半では、資本主義を相対化するために、資本主義も含む通史的な経済史の発展傾向を考え、後半では、資本主義そのものの発展を理解するのに必要な基礎的諸概念を取り上げることとする。それらを通じて考えたいことは、「資本主義とは何か？」ということである。

【講義計画】

1. 前半には、経済史の発展を以下の3つの側面から取り上げる。すなわち、(a) 生産力の発展とは何か、(b) 経済システムの展開、(c) 国家とグローバリゼーション。
2. 後半には、資本主義発展を理解するための基礎的諸概念を取り上げる。具体的には、産業革命、先進国と後進国、経済恐慌、独占資本主義、国際通貨体制、社会主義、福祉国家、グローバリゼーションなどである。

【成績評価の方法】

秋学期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト

科 目 名			
異文化間コミュニケーション論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	遠 山 淳
02	秋学期集中	4	

【講義概要・学習目標】

講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーションなどについて講義し、文明と文化、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。また英語・日本語教員志望者に配慮し、英米人のコミュニケーション特性についても講義する。

情報は文化を生成し、文化は人間に対して常に規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。さて諸君はどこまで自文化を越えられるだろうか。

【講義計画】

- 異文化コミュニケーション論とは
- 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論
- 自文化中心主義と文化相対主義
- コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型
- 言語と文化：エティックとイーミック
- 非言語コミュニケーション
- コミュニケーション能力と言語能力
- コミュニケーションの文化型：片立型文化と両立型文化
- 9-10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ
- 「理解」法の文化比較：「わかる」こと、言行の一致と乖離
- 定量的方法と定性的方法、特徴と限界

【成績評価の方法】

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

【教科書】

遠山共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998

【参考文献】

遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993
吉田暁編・石井・久米他編『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987
祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992
遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001
他は授業中に紹介する。

【備考】

<02～04生>
E・SS・SW・J 生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
意味論・語用論 (旧意味論－意味論の基礎概念) (旧語用論－語用論の基礎概念)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	林 宅 男

【講義概要・学習目標】

この授業ではことばの持つ意味の諸相について学ぶ。前半は語や文の概念について研究する「意味論」を、後半は特定の場面や文脈での意図の意味を研究する「語用論」を扱う。意味論では、近年の認知科学の発展と平行して最近注目を浴びている「認知意味論」に基づき、言語が脳 of 精神作用一般の働きとどのように密接に関係し、その意味が主観的な自己の経験や知識とどのように繋がっているかを学ぶ。語用論では、我々がことばを使ってコミュニケーションをする場合にどのように意図（意味）を表現するのか、その表現の解釈の原理やメカニズムはどのようなものであるか、更に、ことばの意味は社会的場面やイデオロギーとどのように関わっているのか、などについて学ぶ。

【講義計画】

- 認知意味論の意味観
- 範疇とプロトタイプ
- イメージスキーマ
- 意味の拡張
- 認知的文法・構文研究
- プラグマティックスの意味観
- 言語形式の談話レベルでの分析
- 発話における意図と解釈
- 言語使用の認知的研究
- 社会的プラグマティックス

【成績評価の方法】

出席、クイズ、課題、試験などを総合的に評価する。

【教科書】

- 高原脩・林宅男・林礼子（著）「プラグマティックスの展開」勁草書房
- プリント教材

【参考文献】

- 辻幸夫（編）「認知言語学への招待」シリーズ認知言語学入門 第1巻 大修館書店
- 松本曜（編）「認知意味論」シリーズ認知言語学入門 第3巻 大修館書店
- Jenny Thomas, Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics, London: Longman
（日本語版：ジェニー トーマス（著）田中典子他（訳）「語用論入門」研究社）
- 小泉 保（編）「入門語用論」-理論と応用- 研究社

科 目 名			
医療保健福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	小 西 加保留

【講義概要・学習目標】

1. 保健医療領域におけるソーシャルワークの理念と意義を理解する。
2. 医療の変遷と福祉の理論的枠組みを理解する。
3. 保健医療の展開とソーシャルワークの歴史を学ぶ。
4. 保健医療ソーシャルワークにおける倫理と価値の問題を理解する。
5. 医療と患者の人権について理解する。
6. 保健医療ソーシャルワークの対象と相談援助活動の実際を知る。
7. 保健・医療・福祉の連携とチーム医療について学ぶ。
8. 保健医療における今日の状況とソーシャルワークの課題を知る。
9. 医療保障制度の概略を理解する。

【講義計画】

1. 医療保健福祉の理念と意義
 - 1) 医療の変遷と社会福祉
 - 2) 医療モデルと福祉モデル
2. 保健医療分野におけるソーシャルワークの歴史
3. 各国の保健医療ソーシャルワーク
4. 患者の人権と社会福祉
5. 医療保健福祉の相談援助活動
 - 1) 保健医療ソーシャルワーク業務指針
 - 2) 倫理と価値
 - 3) 相談援助活動の実際 (1) 慢性疾患 (2) 難病 (3) 救急医療 (4) ターミナルケア (5) 小児医療 他
7. チーム医療と連携
8. 医療施策の変遷と今日的課題
9. 医療保障制度の概要

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、学期末試験によって総合的に評価する。

【教科書】

講義時に適宜配布する。

【参考文献】

- ・保健医療の専門ソーシャルワーク研究会『保健医療の専門ソーシャルワーク』（中央法規出版）1996
- ・杉本照子監修『医療におけるソーシャルワークの展開—その原則と実践—』（相川書房）2001
- ・大本和子他著『医療ソーシャルワーク実践50例』（川島書店）1999
- ・日本医療社会事業協会編『保健医療ソーシャルワーク原論』（相川書房）2001
- ・日本医療社会事業協会／日本社会福祉士会編『保健医療ソーシャルワーク実践1, 2, 3』（中央法規出版）2004

科 目 名			
インドネシア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	小 池 誠

【講義概要・学習目標】

この授業は、基礎的なインドネシア語の習得を目的としている。毎回の授業では、できるかぎりインドネシア語を聞き、話すことによって、インドネシア語の発音と表現に受講者が慣れるようにしたい。また、インドネシア語の発音と文法にはあまり細かくこだわることなく、日常のさまざまな場面で必要とされるものとも基礎的な言葉と表現を学んでいきたい。

授業のなかで、インドネシアの音楽を聞いたり、また映画を観たりすることで、インドネシアの言語と文化をより身近に感じられるようにしたい。

【講義計画】

日常のあいさつ、自己紹介からはじめて、買い物や食事などで使う表現まで、毎回の授業で学んでいく。

【成績評価の方法】

出席と授業中の学習態度、宿題への取り組み、および各学期末に実施する試験の成績を総合的に評価する。

【教科書】

武部洋子『旅の指さし会話帳② インドネシア』情報センター出版局

【参考文献】

授業の中で必要に応じて指示する。

科 目 名			
インドネシア語Ⅰb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	ティティス ニティスワリ Titis Nitisiwari

【講義概要・学習目標】

この授業は基礎的なインドネシア語の習得を目的にしている。授業内容は、発音、語彙、文法、そして簡単な会話や作文を含んでいる。具体的には、プリントをゆっくり丁寧な学習を行いたい。インドネシア語は、比較的学習しやすい言語である。そのため、授業は複雑ではなく、大量の予習復習も必要ではない。ただ、授業進行が円滑になるように、できるだけ継続して出席して常に授業内容を把握していることが望まれている。

【講義計画】

プリントを一年かけてゆっくり丁寧に学習したい。前期は、主に、発音、語彙、簡単な文法や構文の習得を目指す。後期は、より複雑な文法とその運用を学んでゆく。大量の予習復習は必要ないが、毎回の授業で練習に積極的に参加して頂きたい。

【成績評価の方法】

出席、授業参加の態度、各期末の書き取りなどの総合評価。なかでも、継続して出席して、積極的に授業中の練習に参加することを最も住したい。

【教科書】

毎回プリント配布

科 目 名			
インドネシア語Ⅱa			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

1年次の学習を基礎にして、インドネシア語を読む力をつける。
1年後には、辞書の助けを借りつつ、インドネシア語でインドネシアの社会や文化を自分で学ぶことができるようになることを目指す。講読テキストとしてはインドネシアの社会や文化を紹介するものを取り上げる。

インドネシアの社会と文化を理解する助けとして、また身近に感じるために、映像資料も使っていきたい。

あわせて、自分を表現することを中心に、作文にも力を入れる。徐々に接辞を使い、また接続詞と関係代名詞を使って、長い文章が書けるようになってほしい。

【講義計画】

1. 辞書の引き方＝接頭辞の外し方（復習）
2. 講読＝INDONESIA, JAKARTA, BALI, dll.
3. 接辞の機能
4. 作文＝自己表現を中心に
5. 映像資料によるインドネシア理解

【成績評価の方法】

毎回出席することが前提である。平常点と期末テストの成績を総合して評価する。

【教科書】

特定の教科書は使わない。講読テキストは適宜配布する。辞書については授業中に説明紹介する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科 目 名			
インドネシア語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	ティティス ニティスワリ Titit Nitiswari

【講義概要・学習目標】

二年目のインドネシア語の学習で、この授業では、主に実践的な運用能力の向上を目指したい。具体的には、プリントを使用しながら、そこで得られた知識が実際にはなせたり、聞き取れたりできるように練習したい。大量の予習復習を課すことはないが、二年目に入るために、単語や構文を記憶してゆくことは大切になってくる。それに役に立たすような授業中での練習を試みたい。

【講義計画】

前期では、主に、一年目で学習した基本的な構文の復習と補強を行いたい。具体的には、名詩文、形容詞文、簡単な動詞文の復習である。この練習のなかでは、非常に良く使われる単語を紹介して、実践的な知識を補強したい。後期では、主に、より語法的、文法的な項目の練習を増やしてゆきたい。

【成績評価の方法】

出席、授業参加の態度、各期末聞き取りの総合評価。授業中に積極的に練習に参加することを最も重視したい。

【教科書】

毎回プリント配布

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley

【講義概要・学習目標】

The class is for people who are confident or reasonably confident of their English speaking ability, and who are not afraid to speak out in class. There will be no textbook, and the class will be allowed to develop according to the needs and whims of the people attending. My role will be to draw out the natural ability of the students, not to talk down to them as a "teacher".

【講義計画】

Principally this will be a speaking-centred class, but I will always be open to student comments as to what we should do next.

【成績評価の方法】

Attendance is expected at every class. There will be no test, so students will be assessed according to how positively they participate in class.

【教科書】

None

【参考文献】

None, but I expect students to be able to talk about books they have read recently.

【備考】

アドバンストクラス

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02 03	通期 通期	2 2	村 瀬 寿 代

【講義概要・学習目標】

TOEICのスコアアップを目指すとともに、英語力を上げるための講座である。問題集を解きながら授業を進めるが、正答をこちらから与えるのではなく、学生が正答を出せるように考えることが重要である。そのためにも、一方的ではない、学生参加型の授業とする。また、授業に出席するだけでは、到底高スコアは望めない。従って、毎回かなりの自習が必要である。一年間、英語漬けになるのを覚悟の上で履修すること。現在目標としているスコアより、少なくとも100点はアップするつもりで取り組むこと。リスニング部分はすべて英語で、文法・リーディング部分も大方は英語で授業を行う。

【講義計画】

前半はTOEICによく出題される文法や表現、リスニングの速さに慣れることに焦点をあて、解くコツを覚えながら、問題にあたる。後半は問題量をさらに増やし、難解な問題にも対処できるようにすることで、英語力を上げる。毎回語彙の小テストは行う。

【成績評価の方法】

小テスト、授業中に行う模擬テスト、TOEICテストの結果などで評価を行う。

【教科書】

開講時に指示する。
テキスト以外にも、プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

【備考】

TOEIC対策講座

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	2	今 井 由美子

【講義概要・学習目標】

音声学理論を理解しながら、母音子音各音の正しい発音方法から強勢、リズム、イントネーションなど英語の音声体系を学ぶ。さらに特別な強勢パターン、強勢とイントネーション、話者の意図の関係などを学び、最終的には様々なスピーチやダイアログを、学生自らが音声学理論に基づき音声表現できるようになることを目標とする。

このクラスは発音練習・発表が中心となるため、受講希望者はその旨を十分承知した上で登録してほしい。

【講義計画】

1. 母音子音の発音練習
2. 内容語、機能語
3. 語強勢、文強勢、弱形、強形
4. イントネーション
5. 音のつながり
6. 最も強く読まれるもの
7. 句動詞
8. 特別な強勢パターン

詳細については最初の授業で提示する。

【成績評価の方法】

出席、練習態度、試験などを総合的に評価する。
詳細については最初の授業で提示する。

【教科書】

PHONETICS IN CONTEXT
英語音声学の基礎：理論と実践
北星堂

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	2	渡 邊 眞理子

【講義概要・学習目標】

日本は戦後様々な面においてアメリカの影響を大きく受けてきた。一方アメリカはどうであろうか。アメリカにおいても日本をはじめ東洋の国々がもたらした影響は少なくない。北京では人々はコーラを飲みリーバイスのジーンズをはいているが、ニューヨークでは人々はAnna Suiでお茶を飲んでいる。このようなアメリカにおける東洋の国々の文化の影響を多岐にわたって取り上げている本をテキストに使用する。たとえば日本のアニメのドラゴンボールやセイラームーンといった最近のものから、忍者や折り紙などの伝統的なものまで取り上げられている。とにかく非常に面白く読める内容であるので、翻訳するつもりで読み進めていきたい。

また、TOEICのPart I ～Part IVの練習問題を使って、英語のリスニングスキルの向上をはかる。

【講義計画】

1. Art and Design
2. Books and Literature
3. Film and Television
4. Food and Drink
5. Games and Leisure
6. Ideas and Philosophy
7. Sound and Stage
8. Style and Fashion

【成績評価の方法】

出席・授業への参加度・課題の提出などによって総合的に評価する。

【教科書】

Eastern Standard Time: A Guide to Asian Influence on American Culture : From Astro Boy to Zen Buddhism

著者: Jeff Yang, Dina Gan, Terry Hong, A. Magazine

出版社: Houghton Mifflin Company

インターネットAmazon.co.jpで廉価で入手できるので各自が購入すること。

科 目 名			
英語科教育法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	西 本 有 逸

【講義概要・学習目標】

英語教員には英語力が不可欠であることは言うまでもないが、それだけでは不十分で、中学生や高校生に対して効果的な指導はできない。指導法についての知識とそれを実践する力が必要である。本授業では、外国語教育及び関連諸科学の最近の研究成果と指導技術を学び、それらを用いて実際に授業ができるようになることを目標とする。

【講義計画】

- (第1週) ガイダンス
- (第2週) コミュニケーションとは
- (第3～7週) 中学校の授業
- (第8～12週) 高校の授業
- (第13週) 語彙の指導
- (第14週) 文法の指導
- (第15週) リスニングの指導
- (第16週) リーディングの指導
- (第17週) ライティングの指導
- (第18週) スピーキングの指導
- (第19～24週) 模擬授業
- (第25～27週) テスト問題作成
- (第28週) まとめ

【成績評価の方法】

- ・出席点（約30％ 各学期2回を越えて欠席した場合、単位を認定しない。）
 - ・レポート（3本程度）および模擬授業（約60％）
 - ・7月下旬の学校での英語教育セミナーへの出席（約10％）
- ※上記のうち1つでも欠いた場合は単位を認定しない。

【教科書】

『より良い英語授業を目指して』（斎藤栄二・鈴木寿一 編 大修館書店）

※生協にて一括購入し販売する。

【参考文献】

『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』望月昭彦（編） 大修館書店

『英語教育用語辞典』白畑智彦ほか著 大修館書店

科 目 名			
英語科教育法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	西 本 有 逸

【講義概要・学習目標】

英語教育の諸領域から具体的な問題群を取り上げ、学生による調べ発表・全体による討論（使用言語は英語の場合もある）を行う。そのうえで、模擬授業のレベルアップを目標とする。

【講義計画】

問題群…

ガイダンス／コミュニケーション能力／四技能の統合／文法指導／リスニングの指導／スピーキングの指導／リーディングの指導／ライティングの指導／誤りの訂正／動機付けと教材／評価／教師と学習者／

※受講者全員にプレゼンテーションと模擬授業を課す。

【成績評価の方法】

- ・出席点（30％ 各学期2回を越えて欠席した場合、単位を認定しない。）
- ・プレゼンテーションおよびレポート・模擬授業（約60％）
- ・7月下旬の学外での英語教育セミナーへの出席（約10％）

※上記のうち1つでも欠いた場合は単位を認定しない。

【教科書】

『より良い英語授業を目指して』（斎藤栄二・鈴木寿一 編 大修館書店）

※生協にて一括購入し販売する。

【参考文献】

『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』望月昭彦（編）大修館書店

『英語教育用語辞典』白畑智彦ほか著 大修館書店

科 目 名			
英語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	清 水 真 一

【講義概要・学習目標】

英語は人間言語としての特性を内包する。また同時に英語という個別言語としての特性をあわせもつ。まず、人間という種のことばの基底に横たわる知識を探求する言語学の基礎概念を紹介し、また、その基本的な考え方を学ぶ。これを踏まえて、英語学をことばの科学として捉えることにしたい。英語のデータを中心に授業をすすめるが、それ以外の言語も参照する場合がある。

概論という性格上、事細かな技術的議論には触れない。英語学における基本的概念の把握と、基礎データの観察に習熟することを目指したい。

【講義計画】

1. 英語学と言語学
2. 音声学
3. 音韻論
4. 形態論
5. 統語論
6. 意味論
7. 語用論

【成績評価の方法】

原則として、出席、小テスト、試験に基づいて総合評価をおこなう。

【教科書】

郡司隆男・西垣内泰介 編著『ことばの科学ハンドブック』（研究社）

科 目 名			
英語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	林 宅 男

【講義概要・学習目標】

(この授業は原則英語で行われるが、適宜日本語も使用する。)

“English linguistics” (or “eigogaku in Japanese”) is a branch of linguistics, which aims to find out the nature of the speaker’s knowledge of language, how the knowledge is used, and principles and mechanisms underlying the knowledge and use of language. This is an introductory course of English linguistics through which students will learn a wide range of matters on English such as how sounds are made and changed (or phonetics and phonology), how words are made (or morphology), how words and sentences mean (or semantics), how phrases and sentences are formed (or syntax), and how language is used in communication (or pragmatics).

This course is taught mostly in English though Japanese is also used when necessary.

【講義計画】

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| (1) Introduction | (7) Semantics I |
| (2) History of English | (8) Semantics II |
| (3) Phonetics and Phonology | (9) Pragmatics |
| (4) Morphology | (10) Sociolinguistics I |
| (5) Syntax I | (11) Sociolinguistics II |
| (6) Syntax II | (12) Psycholinguistics |

【成績評価の方法】

Grades will be given based on your attendance, reports, quizzes, mid-term & final examinations, and class participation

【教科書】

1. 影山太郎・Brent de Chene・日比谷潤子（著）
「First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩」
くろしお出版

2. プリント教材

【参考文献】

1. Madelon E. Heatherington（著） 児玉仁士・阿部一（編注）
How Language Works 英語学入門 金星堂
2. 安藤貞夫・澤田治美（編）「英語学入門」開拓者
3. 西光義光（編）「日英対象による英語学概論」くろしお出版

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
英語学研究－言語習得論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	ケビン グレグ Kevin R. Gregg

【講義概要・学習目標】

我々は、母語に関しては非常に複雑かつ微妙な知識を持っているが、その知識は我々が平易に喋ったり聞いたりする言語行動の基盤である。しかし、その知識をどうやって得られたかという問題は、案外説明しにくい問題である。本授業では、乳幼児の母語（特に英語）の習得過程のデータを考察しながら、説明を探る。（「説明する」と言っていないのに注意。）

うまくいけば、受講生は次の目的を達成する：

- ・科学理論や方法の対象としての習得問題の特徴への理解
- ・自然科学としての言語学と言語習得論との位置付けへの理解
- ・習得問題の複雑さや解きにくさへの理解
- ・習得研究を評価する（ある程度の）能力
- ・習得研究が示唆する、こころに関する帰結への理解

【講義計画】

1) 背景知識：

- ・科学の基礎概念：仮説形成と仮説検証、証拠と反証、予測と説明、最良説明への推論、など
- ・言語習得論の基礎概念：言語能力と言語運用、刺激の貧困、学習可能性、普遍文法、原理とパラメータ、など
- ・学習の種類：帰納法、演繹法、連合、列挙、刷り込み
- ・こころに対する2つのアプローチ：経験主義と生得論

2) 研究データや仮説

- ・初期状態：乳幼児の生得の知識
- ・語や文法の習得：具体例
- ・習得の原理
- ・入力役割：肯定証拠、否定証拠、「母親語」
- ・言語の異常：言語障害者、自閉症、「狼子女」 など

【成績評価の方法】

小テストも学期末試験も行なう。

【教科書】

S. Pinker 著、椋田直子訳『言語を生みだす本能（上、下）』
NHK, 1995

科 目 名			
英語史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	野 原 康 弘

【講義概要・学習目標】

イギリスを旅してまわると、いろいろな場所で、いろいろな民族が残したのを見ることができる。南西部のソールズベリー平原には、ケルト民族以前の住民たちの遺産「ストーンヘンジ」が今でも謎のまま残されている。ケルト民族伝説のアーサー王の城だったといわれているものは、いたるところにある。イングランド北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約2千年前のローマ人の支配の強さを今なお見せつけている。東部の海岸は「サクソン海岸」と呼ばれ、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院」はヴァイキングの侵略の激しさを物語っている。おびただしい数の「フランス語からの借用」は1066年以後、約300年以上のノルマン人の支配を知らしめている。このような外的な歴史の変化にともなって、英語という言語がもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。したがって、この講義では「英語」という言語が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを学んでいくことになる。

【講義計画】

1. 英語の祖先語
2. ケルト民族の遺産
3. ローマ人による征服
4. ゲルマン人による征服
5. 英語の始まり
6. 古期英語
7. ヴァイキングによる侵略
8. ノルマン人による征服
9. 中期英語
10. Chaucerの英語
11. 近代英語の始まり
12. 英国のルネサンス
13. Shakespeareの英語
14. 聖書の英語
15. 近代英語後期
16. 語形成
17. 意味の変化
18. 統語法の変化
19. アメリカ英語
20. 世界の英語

【成績評価の方法】

試験を重視。出席も考慮する。

【教科書】

『英語史入門』H. Kozioł（小野茂訳）南雲堂

【参考文献】

授業中にその都度指示する。

科 目 名			
英語表現文法 (旧英語の構造)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	三 宅 亨

【講義概要・学習目標】

言葉を用いて自分の表現したい内容（意味）を聞き手（読み手）に伝えるには、まず語彙を身につける必要がある。しかし、いくら語彙が増えても使い方を知らなければ、日常会話の決まり文句程度の片言の域を出ない。いくつかの語を適切につなぎ正確に意味の伝わる文を作り出す能力（文法知識）が欠かせない。文は単に語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解しなければ、文を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりすることはできない。この講義では英語でのコミュニケーションに求められる文構造を扱う統語論（syntax）を中心に、高校までに身につけた英文法知識を現実に使われている英語と比べて整理し直し、英語が使えるようにするという実用面と同時に伝統文法から最新の言語理論面への橋渡しを試みる。これは、英語習得の基礎になるので1年次に履修することが望ましい。

【講義計画】

1. 文
2. 動詞と文型
3. 時制と相
4. 態
5. 話法
6. 助動詞
7. 法と条件文
8. 否定
9. 形容詞
10. 形容詞の型
11. 副詞類
12. 情報構造
13. 文の構成要素の移動

【成績評価の方法】

遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テストやレポートなどに基づき、総合的に評価する。

【教科書】

毎回handoutsを配布する。

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
英米演劇研究－現代版ハムレット (旧イギリスの演劇－現代版ハムレット) (旧アメリカの演劇－現代版ハムレット)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	小 野 良 子

【講義概要・学習目標】

シェイクスピアの『ハムレット』は1600～1601年頃に初演、戯曲のテキストは1603年に初めて出版（Q1）、以後、18世紀初頭までの間に（1623年出版の全集版収録を含めて）、15種類以上のテキストが出版されている。現代の私たちが読んでいるテキストは（18世紀以降、現代まで）これらの異なるテキストの編集、改訂版であり、シェイクスピアのオリジナルのテキストは、厳密に言えば存在しない。

この講義の目的は、『ハムレット』の現代版テキストを読む／観ることを通して、シェイクスピアの『ハムレット』が現代版の中でどのように編集され、改訂されて、しかもなお、『ハムレット』という芝居のおもしろさを表現しているかを検討することである。

【講義計画】

1～2. 『ハムレット』概論

3～10. ケネス・ブラナー監督・主演『ハムレット』を観る：映画鑑賞＋グループ討論

11～15. 『ハムレット』を読む：文化的コンテキストを知る

16～19. ブラナーの『ハムレット』再検討

20～22. ブラナー監督『世にも憂うつなハムレットたち』を観る：映画鑑賞＋グループ討論

23～24. まとめ

【成績評価の方法】

小エッセイ（講義毎）およびレポート（学期末に1点）

【教科書】

William Shakespeare, Hamlet, The New Cambridge Shakespeare (Cambridge UP)

【参考文献】

Kenneth Branagh(ed), Hamlet (Chatto & Windus, 1996)

科 目 名			
英米詩研究－英米詩を楽しむ (旧イギリスの詩－英米詩を楽しむ) (旧アメリカの詩－英米詩を楽しむ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	伊 藤 貞 基

【講義概要・学習目標】

青春や愛、追憶や離別、自然や運命、戦争や平和、夢と現実などを題材とした英米の名詩を鑑賞する。「文学離れ」ということが言われて久しいが、「文学」の素晴らしいところは、人生の折に触れ、かつて読んだことのある文学作品を思い出し、啓発されたり、慰めを得たりできるところにある。英（米）文学の華と言われる英詩は特にこの点で秀でている。詩は小説ほど長くはなく、記憶され、吟唱されて始めて理解できるという側面を持つからである。

一篇の詩を記憶するという事は、単なる頭の体操ではない。一篇の詩を真に理解すること、その詩に対して情緒的認知を与えるということであり、情緒的認知を与えるということは、その詩の語や語句、行や節を繰り返し読むということである。それはまた、どこに強調を置き、どれくらいの間をとり、どのような色調の声で読めば、もっとも良くその詩の持つ意味を伝達できるかを考えることでもある。このようにして初めて、われわれは作詩中の詩人の心の中を窺い、その詩を自分の衣服のように纏い、詩的想像力を通して世界を見ることが出来るのである。英米詩（劇詩）の名句や名セリフ、例えばハムレットの名セリフ “To be, or not to be …” を君/あなたならどのように朗誦するでしょうか。

【講義計画】

英詩の形式や韻律、英米の詩の歴史について簡単な説明をした後、前半は主としてイギリスの詩を、後半はアメリカの詩を読む。いずれも、比較的短い叙情詩から始めて、やや長い詩（オードなど）へと到る。イギリスの詩では Shakespeare, Donne, Marvell, Pope, Blake, Byron, Wordsworth, Keats, Shelley, Tennyson, Arnold, Yeats, Eliotなどの詩、アメリカ詩では Bradstreet, Bryant, Longfellow, Whitman, Dickinson, Frost, Sandburg, Stevens, W. C. Williams, Pound, E. E. Cummings, Edna St. Vincent Millay, Roethke, Ginsbergなどの詩を読む予定。

【成績評価の方法】

平常点（授業への出席数、授業中の態度、授業への参加度）と筆記試験・レポート

【教科書】

未定

【参考文献】

- 1) 志子田光雄 『英詩理解の基礎知識』 金星堂 1980
- 2) 木下・野田・太田編『たのしく読める英米詩』 ミネルヴァ書房 1996/2003
- 3) 新井 明 『英詩鑑賞入門』 研究社 1986
- 4) 新倉 俊一 『アメリカ詩入門』 1993
- 5) 平井正徳『イギリス名詩選』 岩波文庫
- 6) 亀井俊介『アメリカ名詩選』 岩波文庫

科 目 名			
英米小説研究－政治的おとぎ話を読む (旧イギリスの小説－政治的おとぎ話を読む) (旧アメリカの小説－政治的おとぎ話を読む)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	藤 森 かよ子

【講義概要・学習目標】 ★1998年にアメリカの大手出版社ランダムハウスが実施した一般読者が選んだ「英語で書かれた20世紀の小説ベスト100」の上位を占めたのは政治思想小説ばかりでした。世界の中心でわめいているようなふやけた恋愛小説が人気を占めるのは、平和ボケした日本の現象です。 ★英米小説の伝統の中には、「政治風刺小説」というジャンルがあります。本講義では、英国の作家ジョージ・オーウェル (George Orwell: 1903-50) のAnimal Farm(1945)を読みます。この小説は、政治的寓話です。牧場の動物たち（豚や羊や馬やロバなど）が、人間に反逆して、動物だけの独立国家&共和国を創ろうとするのですが、失敗する話です。アニメーション・フィルムにもなっている傑作です。 ★英文は、読みやすく簡潔明晰です。上質の英文に浸りましょう。 【講義計画】 初回：作家ジョージ・オーウェル (George Orwell) の紹介。 テキストの序文の内容確認。 小説のあらすじを把握（プリント使用）。 第2回～第28回：テキスト精読（一回に5ページ読むのが目標） 第29回：まとめ 最終回：学期末テスト対策 ★かなりテキストを読んだ時点で、この作品のアニメーション・フィルム（日本語字幕なし）のビデオを鑑賞します。 【成績評価の方法】 出席率と毎回の授業の終了時に提出する質問&コメント・ペーパーの内容と、学期末試験の結果から、総合的に評価します。 【教科書】 George Orwell, Animal Farm (Signet Classic, New American Library) ★生協で購入するか、インターネットでamazon.co.jpでも購入できます。初回時までに、必ず入手しておいて下さい。 【参考文献】 ジョージ・オーウェル『動物農場』高畠文夫訳（角川文庫） ジョージ・オーウェル『動物農場――原書で楽しむ英米文学シリーズ』斉藤兆史（ペンギン・ミュージズ・コレクション） George Orwell, 1984 (Signet Classic, New American Library) ジョージ・オーウェル『1984年』新庄哲夫訳（ハヤカワ文庫）			
---	--	--	--

科 目 名			
英米の映画－チャップリンから現代映画へ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	大 野 裕 之

【講義概要・学習目標】 1895年に誕生し、いまだ最大の娯楽産業としての地位を保っている映画。 この講義では、主に英米の映画を取り上げ、映画の誕生から最前線までを詳しく見て行く。また講師の体験に基づき、日本の映画業界やテレビ業界の裏側について、その一端を紹介したい。メディアやテレビ・映画関係に興味のある積極的な学生に受けて欲しい。 講義ではビデオを使用する。映画の見方が180度変わる楽しい講義にしたい。 【講義計画】 1. イントロダクション 2－4. サイレント映画 5－7. 戦争と映画 8. 現代アメリカ映画 9－10. イギリス映画の新展開 11－12. 現代テレビ・映画の舞台裏 13－15. まとめ 【成績評価の方法】 学期末にレポート、及び平常点 【教科書】 『ゴダールの肖像』（浅田彰・松浦寿輝著、とつても便利出版部） 【備考】 01生以上対象			
--	--	--	--

科 目 名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	中 井 紀 明

【講義概要・学習目標】

文学とは何だろうか。文学の「定義」は難しいが、具体的な「文学作品」をあげることは難しいことではない。夏目漱石をはじめようとするいわゆる「古典的」文学作品から宮部みゆきの現代ミステリー『誰か』そして有名無名の「文学」作品が巷にあふれている。我々も英文学科で小説、詩、演劇作品など様々な英米文学作品を読んでいる。この講義では、まず一時的に作品から一歩離れて、「文学」の定義を試みる。村上春樹や宮部みゆきを読むことは簡単なことであるが、文学を専門に「研究」するというのはどのようなことをすることなのか。読みに何か特別な「専門家」らしきことを加えることなのだろうか。英米文学を「専攻」というのは何か特別な「研究方法」を習得することなのだろうか。おおむね「講義計画」に沿って諸問題を考えていくが、この日本で英米文学を研究するとはどういうことかも考える。

【講義計画】

1. 文学とは何か
2. 文学を研究するとはどのようなことをすることなのか（文学理論・批評）
3. 英語の歴史を90分で概観しよう
4. 詩的言語はあるのか
5. 読むとはどのような行為か（意味と解釈そして文学能力）
6. 作者は死んだのか（作者・テキスト・読者）
7. 修辞学、詩学（英米詩）
8. ナラトロジー（英米小説）
9. Shakespeareという巨人（英米演劇）
10. 文学と政治（イデオロギー）

【成績評価の方法】

1. 平常点（出席重視は当然であるが、毎回配布される原文資料集をきっちり読みこなせているかがポイントになる。）
2. 定期テストとレポート

【教科書】

教科書は使わず毎回かなりの量の英文資料を配布してそれを解説しながら英米文学研究の諸問題について講義を進める。

【参考文献】

Robert Eaglestone, Doing English
Jonathan Culler, Literary Theory
Gerooge Lakoff, Metaphors We Live by
Robert Scholes, Elements of Literature
他は授業中に言及する。

科 目 名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	日 下 隆 平

【講義概要・学習目標】

この講義では、作品の講義を通じてイギリス文学を学んでゆくうえで、必要となる知識の修得を目標とする。前期は主として、叙事詩や悲劇など文学作品のジャンルや形式に始まって文芸批評の用語や詩型に至るまで基本的な事項を代表的な作品の抜粋を例にとりて学んでゆくことにする。

後期は主として、18世紀から今世紀初頭にかけて書かれた作品のなかから、テーマごとに作品を選び、その思想・表現とそれが書かれた時代の文化背景などを分析してゆく。主として扱うテーマは、〈文学に描かれた都市〉そして〈ポスト・コロニアリズムと文学〉などである。また、これら以外に、ポピュラー・カルチャーの一例として「移民歌」も取り上げるつもりである。

授業ではハンドアウトを配布して説明してゆく。また、背景を理解するためにビデオテープも用いて行くつもりである。

【講義計画】

【前半】

文学作品のジャンル

文学作品の形式

悲劇・喜劇

叙事詩

詩の種類と規則：韻律

比喩、神話と象徴、

T.S. Eliot, "The Hollow Men"

"The Love Song of J. Alfred Prufrock"

小説

【後半】

文学のテーマ

- 1 都市と文学：都市像の変化：19世紀から今世紀にかけて都市はどのように描かれてきたか

William Blake, "London",

William Wordsworth, "Composed upon Westminster Bridge"

James Thomson, "The City of Dreadful Night"

Charles Dickens, "Night Walks"

T.S. Eliot, "Rhapsody on a Windy Night", "Preludes"

Richard Le Gallienne, "A Ballad of London"

- 2 ゴシックの美：廃墟、絵画、建築、小説

- 3 ポスト・コロニアリズム：アイルランドの作品

Jonathan Swift, Gulliver's Travelsから抜粋

W.B. Yeats, "Easter, 1916"

ビデオ鑑賞『マイケル・コリンズ』

- 4 ポピュラー・カルチャー：移民歌

【成績評価の方法】

授業中に課すレポートに加えて前半・後半終了時に試験を行う。

【教科書】

授業で毎回ハンドアウトを配布しますが、かなりの枚数になるので欠席をしないようにしてください。再配布はしません。

【参考文献】

授業で指示します。

科 目 名			
英米文学とキリスト教 (旧キリスト教と英米文学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	谷 本 泰 三

【講義概要・学習目標】

死と復活、信仰と疑惑、希望と絶望、このような対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証して、キリスト教への理解を深め、優れた文学作品が思想に命を与える様子を見ることにある。作品から喜びや、恐怖、そして感動を体験して欲しい。講義は常に聖書に言及しつつ原作品に密着して行う。

【講義計画】

- 1 序論 講義開始に当たって
- 2 Easter 復活祭とは何か。聖書と復活。「ルカ」15章
- 3 E.E.Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス
- 4 William Wordsworth "We Are Seven" 永遠の命
- 5 文学の言葉 "Psalm 23"
- 6, 7 Andrew Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望
- 8 Emily Dickinson "How happy is the little Stone" Marvellの語り手の悩みへの答
- The Beatles "Let It Be" Marvellの語り手の悩みへの答
- 9 John Milton "On His Blindness" 絶望から希望への信仰
- 10 John Milton "On the Late Massacre in Piedmont" 死と再生
- 11 George Herbert "Love" 罪を赦すキリスト／聖餐式の意味
Litany 聖餐式での連祷
- 12-21 William Faulkner "That Evening Sun" イエスの再臨／終末論
- 22 講義総括

【成績評価の方法】

クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。
期末試験またはレポート。

【教科書】

"That Evening Sun"は William Faulkner著 A Rose for Emily and Other Story (英宝社)に入っているものを使用する。
その他のものについては、その都度用意したものを教室で配布する。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
英米文学と現代の諸問題－家族の在り方 (旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ－家族の在り方Ⅰ) (旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ－家族の在り方Ⅱ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	伊 藤 貞 基

【講義概要・学習目標】

三世同居の大家族の時代から核家族の時代へ、そして性革命と女性の自立、シングルや DINKS (子供を持たない共働きのカップル)の時代を経て、高齢化社会へという変化の中で、現代の「家族」は大きく揺れている。未婚や離婚による「片親家庭」や再婚による「混合家族」の出現、同性愛者のカップルとその養子、目覚ましい勢で進歩する生殖技術などなど。人々はいったい「家族」に何を求めているのだろうか。夫婦・親子・兄弟/姉妹間の絆や世代間のギャップに人々はどうか対応しているのだろうか。文学作品が描き出す様々な家族像を通して、現代社会が家族に突き付けている難問や課題を考察し、「家族とは何なのか」「21世紀の家族像はどういうものになるのか」を考えてみたい。

【講義計画】

- 1) "My Son the Murderer" by Bernard Malamud (1968)
- 2) "Afloat" by Ann Beattie (1982)
- 3) "Starlight" by Marian Thurm (1982)
- 4) "The Writer in the Family" by E.L. Doctorow (1984)
- 5) "Teenage Wasteland" by Anne Tyler (1984)
- 6) "Territory" by David Leavitt (1983/1984)
- 7) "Still of Some Use" by John Updike (1987)
- 8) "Elephant" by Raymond Carver

【成績評価の方法】

平常点 (授業への出席数、授業中の態度、授業への参加度) と筆記試験・レポート

【教科書】

井上・水野・島津 編注 『アメリカン・ファミリー』
(American Families) 三修社 及びプリント

【参考文献】

- 1) Barbara H. Solomon (ed. and with an introduction), American Families. Mentor Books. 1989
- 2) 岡田光世『アメリカの家族』岩波新書 2000.5.19
- 3) Stephanie Coontz, The Way We Never Were: American Families and the Nostalgia Trap. Basic Books. 1992/2000
- 4) Stephani Coontz, The Way We Really Are: Coming to Terms with Americans Changing Families. Basic Books. 1997

科 目 名			
英米文学と現代の諸問題－言葉の力 (旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ－言葉の力Ⅰ) (旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ－言葉の力Ⅱ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	小 野 良 子

【講義概要・学習目標】

＜言葉＞は人間関係を作り、発展させ、調整する働きをしている。この講義の目的は、人間関係の中で生まれる友情や愛、忠誠心、自尊心を揺らぎ、こわし、また、あるいは再生する＜言葉＞の力について、考察することである。具体例として、シェイクスピアの『オセロ』と『空騒ぎ』を取り上げ、それぞれの映画版を観ながら、＜言葉＞が人間を操る力について考えていく。

【講義計画】

1～2. 概論
3～8. 『オセロ』を観る－愛が生まれ、こわれる時－
9～14. 『空騒ぎ』を観る－愛がこわれ、再生する時－
15～18. 『オセロ』再検討
19～22. 『空騒ぎ』再検討
23～24. まとめ

【成績評価の方法】

小エッセイ（講義毎）およびレポート（学期末に1点）

【教科書】

特に指定しないが、各自で準備すること。

1. William Shakespeare, Othello
2. William Shakespeare, Much Ado about Nothing

【参考文献】

授業中に紹介する。

科 目 名			
英米文学と現代の諸問題－生と死 (旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ－生と死Ⅰ) (旧現代の諸問題と英米文学Ⅲ－生と死Ⅱ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	金 城 盛 紀

【講義概要・学習目標】

人間は生まれていつか死ぬ。どのように生まれるかは選択できないし、死ぬことは避けられない。しかし、いろいろな生き方があり、死がある。英米文学が生と死をどのように扱ってきたか、特に生きる喜びと死の悲しみを中心にして、詩・小説・演劇を問わず、現代の私たちにとって関係が深いと思われる作品を取り上げて考えてみたい。

【講義計画】

シェイクスピアから現代までの作品を対象にするが、短い詩は原文で読み、小説や演劇はビデオで観る。すべて歴史に残る名作を対象としたい。討論を歓迎するが、アンケートも行う。

【成績評価の方法】

平常点とレポート。

【教科書】

プリントを用意する。

「演習Ⅰ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担 当 者	研 究 テ ー マ	ペ ー ジ
01	竹 歳 一 紀	「株」を通して経済を学ぶ	30
02	梅 本 哲 世	経済学入門	30
03	桂 昭 政	これからの日本の経済社会と仕事について考える	31
04	木 村 二 郎	日本経済入門	31
05	熊 谷 次 郎	経済学あれこれ	32
06	巖 善 平	経済学で現代社会をみる	32
07	佐 賀 朝	現代社会の諸問題	33
08	芝 村 篤 樹	社会について考えるとは？	33
09	鈴 木 健	自分は何を知っていて、何を知らないかを正確に知ろう	34
10	鈴 木 健	せっかく大学に入ったのだから、大学で学ぶことの意味について考えよう	34
11	滝 田 和 夫	経済学の巨人達に学ぶ	34
12	辻 洋 一 郎	大学生活入門	35
13	中 野 瑞 彦	経済と社会の基礎を学ぶ	35
14	中 村 勝 之	大学の「出口」について考える	36
15	西 川 憲 二	経済学って何	36
16	藤 田 香	経済学入門	37
17	前 田 治 郎	時事問題（社説の読み比べ）	37
18	松 尾 純	経済学部に入學したけれど・・・	38
19	松 尾 純	経済学部に入學したけれど・・・	38
20	モグベール ザファル	グローバル経済の中の日本経済	38
21	望 月 和 彦	ディベートで学ぶ社会問題	39
22	矢 根 眞 二	経済学を始めるためのコミュニケーション力の基礎	39

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

現実経済の動きを見ることを通して、経済メカニズムの基本を学ぶことがこの演習の目的である。

とは言ってもあまりに茫漠としているので、何かの糸口が必要である。そこで、日々ニュースなどで頻繁に耳にする「株」というものを中心に据えて学習していくことにする。株式とは何かといったことから始め、株価を上下する要因としてどのようなものがあるのか、株式投資をする場合にどのような点に着目・注意すべきかといったことを学びながら、現実の株価の動きの中で擬似株式投資を行ってみる予定である。

【講義計画】

以下の内容を予定している。順序その他詳細は初回に説明する。

1. PCの基本操作（インターネット、エクセルなど、この演習で用いるものを中心に）
2. 株式についての基本的な学習
3. 財務諸表についての基本的な学習
4. グループ単位での擬似株式投資
5. 株価を左右する経済的要因についての学習
6. 経済見通しについてのディベート

【成績評価の方法】

出席やグループ発表の内容などにより総合的に評価する。詳細は初回に説明する。

【教科書】

演習開始までに指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	梅 本 哲 世

【講義概要・学習目標】

経済学を学ぶ際に必要なのは、現実の経済事象に対する生き生きとした関心である。今、日本でどのような経済問題が起こっており、それをどのように理解し、どのようにしたら解決できるのか、という問題意識を常に持ち続けることが大切である。この演習では、いま新聞やテレビで報道されている経済問題について一応の理解が出来る程度の基礎知識の習得を目指す。授業は基本的にテキストを輪読する形で行うが、ビデオ教材も利用して具体的なイメージで経済を考えられるようにしたい。

【講義計画】

この演習では、現在の日本経済で生起している様々な経済問題について具体的に学習していく。春学期は、家計、消費者問題、情報化、住宅・土地問題、廃棄物問題などについて、秋学期は、戦後日本経済の発展過程、多国籍企業と世界経済、租税と財政、金融などについて学習する予定である。

【成績評価の方法】

出席を重視し、演習での態度（報告・発言など）、およびレポートなどにより総合的に評価する。

【教科書】

未定。追って指示する。

【参考文献】

授業中に適時指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	桂 昭 政

【講義概要・学習目標】

我々の社会は90年代を境にして大きく変化した。比較的平等な横並び社会から格差社会、あるいはきびしい競争社会へと変化し、それは雇用、すなわち働き方の面にもあらわれている。演習1ではこの変化の実態を題材に、すなわち教科書で取り上げている事例等をもとに報告してもらい、現在のきびしい経済社会および働き方に対する各自の意見なり、視点を確立することができればと思っている。

【講義計画】

2冊の教科書のうち前半において『働くということ』を取りあげ、年度の後半で『「人間復興」の経済を目指して』を使用する。授業は上記テキストを題材に報告、討論を行う。それとともにこれからの社会に必要なパソコンの操作技術の習熟にも時間を割いていきたいと考えている。

【成績評価の方法】

出席、報告、討論、レポートに基づいて評価する。

【教科書】

日本経済新聞社編『働くということ』（日本経済新聞社）
城山三郎・内橋克人『「人間復興」の経済を目指して』（朝日文庫）

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4	木 村 二 郎

【講義概要・学習目標】

激動する世界経済の中における現代の日本経済が直面している問題の本質は何か、その問題はどのような歴史の流れの中から発生し、今後どうなっていくのか。私たちを取り巻く経済の状況を自分の頭脳でキャッチして、その問題点を理解し、解決の方向を自分なりに考えることが、自立した人間の基本的条件であるといえよう。

この演習 I では、テキストを輪読しながら、日本経済がかかえるさまざまな現実の具体的な問題を学習する。交替にレジュメ作成・報告を行い、それに基づいて全体で討論して認識を深める。また、時事問題などをテーマにディベート（討論）を行う。この演習 I を通じて、大学で経済学を学んでいく基本的方法を身につけ、経済を研究することの面白さを理解することを目標にする。

【講義計画】

演習参加者を6班にわけて、班単位で報告したり、班対抗でディベートをしたりする。したがって、事前の準備も班の仲間と協力してすることになる。演習の課題をこなす中で、論理的思考やコミュニケーション能力を磨き、人前で自分の意見を筋道を立てて話す練習を行う。また、与えられたテーマで、論述・作文の練習も随時行う予定である。

【成績評価の方法】

出席することが前提である。そして、演習の準備や報告・討論などにおける参加姿勢と春・秋の期末テストの成績を総合的に評価する。

【教科書】

三橋規宏・内田茂男著『ゼミナール日本経済入門（2005年度版）』日本経済新聞社、2005年4月。

【参考文献】

文藝春秋編『日本の論点2005』文藝春秋、2004年11月。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4	熊 谷 次 郎

【講義概要・学習目標】

「経済学の世界」というテーマで、経済学とその他の学問分野との関係、経済学の理論に属するミクロ経済学やマクロ経済学（ミクロ？マクロ？何それ？でいまは結構）、政策に関連する財政や金融の問題、日本のバブルとその崩壊後の長引く不況あるいはデフレ、世界経済の現状——こうした事柄の基礎を学んでいきたいと考えている。経済学部を志望してきたわけではなく、しかたなく経済学部に入ったという諸君もいると思うが、来年の春には経済学の基礎は一応マスターした、というレベルまで持っていくことが目標である。

【講義計画】

テキスト、あるいはプリントや資料をもとに、私が説明をしたり、諸君が報告をしたり（一口話で終わるかもしれないが、最初はそれでもいいだろう）、みんなでディスカッションをしたり、レポートを提出してもらったり、などなど多様な形で授業を進めるつもりである。

【成績評価の方法】

出席、報告、レポートなどにもとづいて総合的に評価するが、出席とレポートをとくに重視する。出席が3分の2以上ない場合、あるいは3分の2以上の出席があってもレポートを一度も提出しない場合は単位は取れないと思ってほしい。つまり3分の2以上の出席と一度以上のレポートの提出がないとアウトである。

【教科書】

この原稿を書いている時点（1月21日）ではテキストは未定。今後4月までの間に、新入生向きの格好な本が出版されるならば（これはよくあることなのだが）、それをテキストとする。その場合には生協で販売される教科書一覧表にそれを載せてもらうので、購入すること。一覧表にこの演習のテキストが載っていない場合は、テキストは無し、ということを意味する。その場合にはプリントや資料を適宜配布して、それをもとに授業を進める。

【参考文献】

必要に応じて指示する

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4	巖 善 平

【講義概要・学習目標】

この演習では、現代社会に存在する様々な問題（とくに経済問題）を取り上げて分かりやすく説明する。例えば、平等社会であった日本はどうして格差社会に移ったのか、若者の失業問題や労働市場の構造変化、少子高齢化社会の抱える諸課題、など。演習では、人々が関心をもつ身近な話題を受講生とともに選び出す。また、個々の問題については専門的に解説し深く考えてもらおうというよりも、様々な問題の実態やそれらに対するいろんな考え方を知ってもらい、そして、自らがそうした問題を考えるきっかけを見付けられたら、それでよい。この演習ではそうした目標の達成を目指す。

【講義計画】

- ・最初の演習でいくつかの社会経済問題を提起して、受講生の意見を聴取する。その上で各自の研究課題を決めてもらう。
- ・所定の教科書や配布資料をグループで分担する。内容を精読し、その内容をレジュメにしてゼミで発表する。
- ・レジュメの作成、情報収集、データ処理の基礎を情報センターで実習する。

【成績評価の方法】

出席、発表、レポートで総合的に評価する。

【教科書】

橘木俊昭『日本の経済格差—所得と資産から考える』岩波新書

【参考文献】

随時配布

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4	佐 賀 朝

【講義概要・学習目標】

この演習では、大学で学習・研究を行っていくための基本的な能力を身につけるため、現代の世界と日本をめぐるさまざまな社会問題を取り上げて、共同で学習、調査し、発表や討論を通じて理解を深めていく。その際、以下のような能力の獲得が重要である。まず(1)論述的な文章を読み、その内容を正確に理解すること。次に、(2)特定のテーマについて調べるために文献や資料を収集し、整理・分析すること、さらに(3)そのようにして調べ、分析した結果やそれに対する自分の意見を、文章や発表の形で表現すること、その上で(4)他人との間で討論し、批判しあうことを通じて意見の相違や共通点を確認し、問題についての理解を深めること、である。

書くことや議論すること、あるいは自分で読み、調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにひじょうに大事な作業である。

1年間の演習を通じて、受講生それぞれが社会問題への関心を深め、自分が取り組むべき何らかの課題を発見することができれば、と考える。

【講義計画】

(前期) ある問題についての新聞記事や論説・論文などを読み、担当者を決めてその要約や論点整理を行い、関連する資料を調べるなどしながら、疑問・批判なども提示する形で発表し、それを素材に全員で討論を行う。

場合によっては、各自の意見を文章化し、その文面・内容を相互に検討したり、討論の内容をまとめるなどの課題を追加する。

以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書く能力を身につけること、などをめざす。

(後期) 基本的なサイクルは前期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。

*なお、取り上げるテーマとしては、戦争と平和、環境問題、教育問題、福祉問題から、若者の雇用問題など、様々なものが考えられるが、受講生の関心も汲み上げながら設定していきたい。

【成績評価の方法】

出席・受講態度、報告、討論、レポートなどを総合的に評価。

【教科書】

特に定めず、随時、プリントなどを配付する。

【参考文献】

授業の中で随時、提示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4	芝 村 篤 樹

【講義概要・学習目標】

大学での勉強とはなんだろうか。高校までの勉強とどう違うのか。まずここから考えてみたい。次いで、みなさんは経済学部を選択して入学した。経済学のように、社会を相手に科学するとはどういうことか。

演習では、このようなことを念頭において、社会を科学するために基礎的に必要な力が身につくようにしたい。一番の基本となるのは、社会について問題意識をもつこと、書き言葉、話し言葉を受信し発信する能力を身につけることである。現代社会の諸問題を論じた短文を教材に、受講者が報告し議論する、年に何度かレポートを提出し添削を受ける、これがこの演習の大半となる。

【講義計画】

最初の数回のオリエンテーションを経て、教材をもとに報告・議論をおこなう。報告者は必ずレジュメを準備し、それ以外の人は必ず疑問・問題提起を用意し発言する。年に数回レポートを課し、文章作法についても学ぶ。

【成績評価の方法】

平常点およびレポートによって評価する。

【教科書】

とくに無し。必要に応じレジュメ・資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じ指示する。

科 目 名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09 10	通期 通期	4 4	鈴 木 健

【講義概要・学習目標】

本演習では、充実した大学生活を送るために最低限必要とされる「技・ワザ」を習得し、同時に大学生らしい「ものの見方・考え方」の基礎を修得することを目標としています。本演習はいわば「大学生活入門」とでも言うべきものですが、「入門」をくぐり抜けないと「免許」は与えられないというのは、大学でも同じです。

【講義計画】

春学期中は、主として「技・ワザ」の習得を課題とします。図書館の利用の仕方(本の借り方、資料の利用の仕方、等々)、PC(パソコン)の使い方(メール、インターネットの利用の仕方、等々)、講義の聴き方(ノートのとり方、レポートの書き方、等々)、を中心に、「技・ワザ」を身につけることを目標とする。秋学期には、大学生らしい「ものの見方・考え方」を修得することを目標とします。新聞の経済記事を素材に皆で考え、討論する、討論の仕方も訓練する。テーマを決めて図書館から本を借り出し、レポートを書いてもらう、レポートはPCで仕上げ、メールで提出する、等々を繰り返し行うことになるでしょう。

【成績評価の方法】

年間の出欠回数、演習に参加する態度、与えられた課題の達成度、等々を全体として勘案して判断する。出席は3分の2以上が前提となる。

科 目 名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4	滝 田 和 夫

【講義概要・学習目標】

現代の経済学は、A. スミス、J. M. ケインズ、K. マルクスなどの経済学の巨匠たちが作り上げた経済理論を基礎に組み立てられている。例えば、本学経済学部必修科目である経済原論はIA-1(ミクロ経済学)、IA-2(マクロ経済学)、IBと三つに分かれているが、あえて単純化すれば、これら三つの経済原論はそれぞれ上の三人の経済学が発展したものといえる。この演習では、経済学への入門として、彼ら三人を含む何人かの経済学の巨匠達が、どのような人生をおくり、また自分たちが生きた時代の問題をどのように考え、解決しようとしたのかを学んでいきたい。その際、難解な経済理論そのものよりも、むしろその人物の人生と社会の見方・理想・ヴィジョンなどに焦点を合わせて進みたい。

演習では、経済思想のやさしい入門書としてアメリカで長く定評のある下記のテキストを輪読していく。つまり、テキストの分担を決めて、担当者には内容を要約・報告してもらい、それに基づいて討論を行う。このようにして経済学の巨匠たちに慣れ親しむことがこの演習の基本目標であるが、それと同時に、現実の経済に関する感覚を磨くことも大切なので、毎回のゼミの最初20分程度は新聞の興味ある経済記事について、やはり報告者を決めて報告・討論を行いたい。

【講義計画】

毎回、最初の20～30分間は、経済記事の報告・討論。その後、テキストについて報告・討論。

【成績評価の方法】

出席とレポート・報告・討論の状況による。

【教科書】

ロバート・L・ハイルブローナー著、八木甫他訳『入門経済思想史、世俗の思想家たち』筑摩学芸文庫

【参考文献】

必要に応じて随時指示する。

科 目 名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
12	通期	4	辻 洋一郎

【講義概要・学習目標】

入学おめでとうございます。

「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰もすぐにホイホイと思った通りにできるわけではありません。この「演習Ⅰ」では、次年次以降の演習科目で成果が上がるために必要な、①考え方の技術や②演習の作法を学習します。

【講義計画】

春学期最初の数回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。

【成績評価の方法】

出席を重視します。

やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員に連絡すること。

【教科書】

使いません。必要に応じて資料やプリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じて講義中に指示します。

科 目 名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
13	通期	4	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

社会と経済は密接に結びついている。身近な事象の一つ取ってみても何らかの形で経済と結びついている。しかしながら、残念なことに、ほとんどの人が経済の仕組みを十分に理解しないまま生活している。一方で、経済はあまりに身近であるために、自分なりに「理解」していると思っている人も少なくない。本当にそうだろうか？この演習では、身近な経済事象を通じて経済学の基礎を勉強する。そのためには、社会的常識と思われる事柄も積極的に学習していかななくてはならない。その意味では、この演習を通じて、経済に絡んだ幅広い分野に注目する意識を養ってほしい。

【講義計画】

1. 経済記事の報告・討論…経済に関する身近な話題を取り上げて議論する。
2. パソコンの演習…経済学を学ぶ上で最低限必要なパソコン・スキルを習得する。
3. テキストの輪読…テキストの内容を分担して報告する。1年間で経済学の基礎的な事項を一通り習得することを目標とする。
4. 経済データの分析…経済データが物語る事実は発見し分析する。

【成績評価の方法】

演習への参加積極度、中間試験、各自課題レポート提出による。

【教科書】

別途指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
14	通期	4	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

「大学に進学すれば、就職は何とかなる」と親に言われて大学に
来た学生諸氏が多いだろう。しかし、この台詞が「幻想」でしか
ないことを明らかにするのが、この演習の目的である。いわゆる
「大卒」が就職（というより、むしろ出世）に有利だったのは、
大学進学率が2割までだった時代の話である。今を考えてみよ、
実に5割近くが大学に進学しているのである。しかも今の時代、
全ての「大卒」が有利な条件で雇用できないのは、ニュース・新
聞等でも明らかである。つまり「大卒」は、有利な就職のための
必殺手段ではなくなったのである。では対策をどうするか？結局
自分でしなければならないのは言うまでもないが、何がしかの行
動を起こす前に、会社とはどういうところで、どうやって儲けよ
うとしているのか、それを調べていく必要がある。その上で、自
分にとってふさわしい「仕事」とは何か？それを考えて行きたい。
大学に入学した直後の今だからこそ、大学の「出口」について考
えるチャンスである。「勝ち組」になりたけりや、今から行動す
るべし！

【講義計画】

第1回演習時に決める。

【成績評価の方法】

出席を除く全ての手段を用いる。

【教科書】

使用しない。適宜資料を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
15	通期	4	西 川 憲 二

【講義概要・学習目標】

経済学部に入學してどんなことを学ぶのか、経済学って何なの
か。どんな役に立つのか。このようなことを考えるために、いろ
いろなテーマについて説明しながら議論していきたい。そのよう
な中で、話す練習とレポートを書く練習をする。

【講義計画】

大学キャンパス生活
ビデオを見てレポートを書いてみよう
新聞記事の読み方

【成績評価の方法】

出席、レポート。

【教科書】

なし。

科 目 名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
16	通期	4	藤 田 香

【講義概要・学習目標】

テーマ：経済学とは何か？

この演習では、身近な経済現象から経済学の基本的な枠組みについて学習します。

経済学は、何の役に立つのか？

経済に関する意味や仕組みを理解するのはしんどいです。しかしながら、ひとたび経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭をはっきりしてきます。

理解できれば、興味がわき、問題の本質を自分で考え、判断することも可能となるでしょう。

この演習を通じて、経済学部での大学生活をうまく過ごせるノウハウを身に着けましょう。

【講義計画】

I 大学生入門

- ① オリエンテーション
- ② パソコン演習

II 経済学部入門

- ① レジュメ作成の練習
- ② 小論文
- ③ 新聞の読み方

III 経済学入門

- ① 教室での報告と討論
- ② レポート作成

具体的な進め方については、第一回の講義の際に、説明する予定です。

【成績評価の方法】

出席することは前提です。

社会常識やマナーを守って行動しない場合(私語、睡眠、携帯(メール)、飲食、遅刻、途中退出、内職、無断欠席等)は除籍します。

その上で、演習に対する取り組みの積極性(ただじっと座っているだけでは評価しません)、報告、討論、レポート、場合によってはテストにより総合的評価します。

【教科書】

最初の講義で相談の上、決定します。

【参考文献】

必要に応じて、適宜紹介します。

科 目 名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
17	通期	4	前 田 治 郎

【講義概要・学習目標】

大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題（だからこそ研究に値する）を取り上げ、自分独自の見解を見つけだしたり、レジュメ（概要）を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、新聞記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をしてもらう。

【講義計画】

1. 資料収集の研修－図書館、インターネット
2. レジュメ作成の練習
3. 各人のテーマ設定
4. 教室での報告と討論（反復）
5. レポートの作成

【成績評価の方法】

出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合的に評価する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
18	通期	4	松 尾 純
19	通期	4	

【講義概要・学習目標】

いま、皆さんは、大学の経済学部に入學したけれども、これから先、どんな生活をおくり、どのように勉學していけば、卒業に必要な単位を無事取得でき、そして 4 年後に結果として、どのような未来が開け、どのような職につくことができるのか、いろいろと心配されていることでしょう。

この演習 I は、皆さんのそのような不安を解消して、出来るだけ早く大学生生活に馴染むことができるように、いろいろな手助けをする場です。

この演習 I が、学生生活一般・勉學・課外活動などの不安や心配事について、なんでも話し合える場になるようにしたいと思います。

【講義計画】

- 1, 大学生生活に馴染もう。(6 回程度)
キャンパス見學。カリキュラム・ガイダンス。
情報センターに行って E-Mail・インターネット等を使えるようになる。
図書館に行って図書館を上手に利用し、情報を効率的に取得することが出来るようになる。
- 2, 最近話題の社会問題について話し合ってみよう——Ⅰ。(7 回程度)
教師が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
話し合ったことの要約(＝レジュメ)を作成してみよう。
- 3, 最近話題の社会問題について話し合ってみよう——Ⅱ。(7 回程度)
学生が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
話し合ったことの要約(＝レジュメ)を作成してみよう。
- 4, 学生各人(またはグループ)がテーマを設定して、その研究結果を報告し、討論をしてみよう。(7 回程度)
- 5, 研究テーマについてレポートを作成しよう。

【成績評価の方法】

出席などの平常評価 と 学期末に提出してもらうレポートとを総合評価する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
20	通期	4	モ グ ベ ル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

世界経済の中の日本経済を検証し、各国経済事情について勉強する。

【講義計画】

前半では世界経済を全般的に考え、後半では各人が選んだ国の経済状況について調べて発表する。

【成績評価の方法】

出席と授業参加状況(発表の内容と議論への参加)を中心に評価する。

【教科書】

授業中に指定する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
21	通期	4	望 月 和 彦

【講義概要・学習目標】

テーマ：ディベートで学ぶ社会問題

当ゼミは、ディベート専門ゼミです。ディベートとは、ある問題に対して賛成派と反対派に分かれて議論を戦わすゲームです。おそらくみなさんはこれまでディベートなんてしたことないと思います。そのためできるかどうか心配だと思っている人もいるでしょう。でも心配ありません。私はこれまで9年間、1回生のゼミでディベートをしてきましたが、みなさん熱心にディベートに取り組んでもらいました。

本年度は、「ディベート勝負20番!」を考えています。年間20回のディベートを行うつもりです。ディベート担当者以外は、審判となり、ディベートの採点をするので、その都度勝負がつきます。

どのようにディベートするのかについては、テキストを読めばわかりますし、ゼミの最初に説明を行い、ディベートのビデオも見てもらいます。それで十分わかります。ディベートは、自分の意見をどんどん言えるので、おもしろい授業になります。なかには話するのが苦手という人もいますが、ディベートは一人ですのではなく、グループで行うので心配はいりません。

ディベートすることにより、社会問題について関心が芽生えてきます。なぜ勉強するのかが分かってきます。自分の判断ができるようになります。このゼミを終えた頃には、世界観が変わった別の自分になっているかも知れません。

【講義計画】

参考までに2004年度の演習 I で行なったディベートテーマを掲げます。

- 第一回 死刑制度
- 第二回 死に方の選択 安楽死
- 第三回 いじめと管理教育
- 第四回 クローン人間研究
- 第五回 ゆとり教育
- 第六回 日本人は働き過ぎか
- 第七回 経済成長と環境保護
- 第八回 自衛隊の海外派遣
- 第九回 ひきこもり
- 第十回 憲法改正
- 第11回 消費税
- 第12回 日本の核武装
- 第13回 ガン告知
- 第14回 高速道路建設
- 第15回 18歳選挙権
- 第16回 アメリカのイラク攻撃
- 第17回 フリーターは損か得か
- 第18回 ゲームは子どもに有害か

【成績評価の方法】

出席、発表、ディベートの勝敗によって評価する。

【教科書】

望月和彦 『ディベートのすすめ』 有斐閣選書

【参考文献】

文藝春秋編 『日本の論点』 各年版 文藝春秋社

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
22	通期	4	矢 根 眞 二

【講義概要・学習目標】

これからの大学や社会での生活を楽しめるように、「自分流の学習スタイルの基礎を創る」ことが学習目標です。「聞き話す」・「読み書く」というコミュニケーション能力に問題があるままでは、たとえ同じ課題に直面しても、学習効率が悪く信頼も得られないからです。

具体的には、春には現代の鉛筆であるPC（パソコン）を用いて短いEssayを書き、HP上にアップしたりプレゼンしたりする練習を、秋にはチーム対抗のディベート・ゲームを通じて討論したり質問したりする練習を中心に学習します。1人で黙って聞くことが中心の講義とは違って、いずれの練習にも自分から積極的にコミュニケーションの仕方を工夫する姿勢が大切になります。

【講義計画】

●春はもっぱらPCを用いた現代版の「読み書き」の練習が中心で、ネット上の仮想株式取引ゲームにもチャレンジする予定です。取り組む課題が多いので、自分のHPを作ったこともない人は「経済情報処理演習」などを、そもそも文章を書くこと自体が苦手な人は「論述作文」などを履修しておくことを推奨します。

●秋からはディベート・ゲーム中心に切り換え、人前で元気に話す練習が中心になります。日頃の新聞記事の理解から抽象的な論理力までフル活動させて、自分なりのコミュニケーション・スタイルの基礎を工夫しましょう。

★以上のプログラムの具体的な詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい。

<http://rio.andrew.ac.jp/~yane/semi/seml.html>

【成績評価の方法】

●個人的な努力とプログラムの達成度に加え、チームや演習全体への貢献度を加味した平常点をともに評価します。もっとも「大学・社会の生活を楽しめる基礎的なコミュニケーション能力の養成」が目的ですから、合格ラインは以下のように緩やかなものです。

●春はもっぱら「言われたこともできない」ようなレベルからの脱却を最低限のラインとし、遅刻をせず提出期限を守るといった自己管理力の確立を目指します。

●秋は「言われたことしかできない」ようなレベルからの脱却を最低限のラインとし、資料の収集や発表の仕方に創意工夫してみる自主学習力への目覚めを目指します。

●ですから自分なりの書き方や話し方に相応の自信が持てるようになっていれば、Aのラインを十分突破しているはずですから、不安がる必要はないでしょう。

【教科書】

●野口悠紀雄（2002）『「超」文章法：伝えたいことをどう書くか』中公新書 780 →本演習や大学の試験のような短い文章から長文のレポートや論文にも共通する幅広い文章作成に便利なマニュアルで、網羅的な参考文献リストは社会人になっても座右に置く価値があるでしょう。

●望月和彦（2003）『ディベート入門』有斐閣 1900 →ディベートのテーマ・論点・資料が一目で分かるマニュアルで、本演習ではこれらのテーマから興味のあるものをピックアップしてゲームを行います。

【参考文献】

●東保裕之（2004）『株式投資 これだけ心得帳』日本経済新聞社 952 →本演習では「習うより慣れる」で仮想株式取引ゲームをプレイしますが、日頃の新聞記事の他に、ちょっとした株の基礎知識を身につければ、はるかに楽しく有意義にプレイできるはずです。

●ブラウン・キーリー（2004）『質問力を鍛える クリティカル・シンキング練習帳』PHP研究所 1400 →同じくディベートゲームも「習うより慣れる」でプレイしますが、論理力をちょっと磨けば、ずっと鋭い質問や有効な対応ができるようになり、ディベート力にも自信を持てるようになるはずです。

「演習Ⅱ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担 当 者	研 究 テ ー マ	ページ
01	吉 川 真 裕	金持ち父さんに学ぶ	41
02	阿部 秀二郎	経済学への要請	41
03	阿部 秀二郎	経済のあるべき位置付け	42
04	浦 出 俊 和	循環型社会を考える	42
05	大 澤 健	グローバリゼーション	43
06	佐々木 和子	「住む」 ことについて考える	43
07	佐々木 和子	「生活のあり方」を考える	44
08	田 村 剛	文化経済学	44
09	服 部 容 教	マクロ経済学入門	45
10	松 本 誠	地域政策とまちづくりを考える	45
11	三 原 裕 子	嫌うなら喰ってから嫌え！経済学	46

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	吉 川 真 裕

【講義概要・学習目標】

世界的なベストセラーであるロバート・キヨサキの『金持ち父さん』シリーズの一冊をテキストとして、世の中の仕組みについて考えることを目的とする。そして、後半にはテキストの考え方をより深く理解するためにボードゲーム『キャッシュフロー101』（PC版）を全員でプレイしてもらう予定である。

「一生懸命勉強して良い学校を出て、良い会社に勤めることが、お金持ちになることにはかならずしもつながらない」という主張は、優等生でなかった学生には心強いが、勉強しなくてもお金持ちになれるということではない。これまでの学校では教えられなかった「お金」に関する勉強が必要であるというのが著者の主張である。

【講義計画】

以下の順でテキストに沿って、発表と議論を行う。

1. ダビデはなぜ巨人ゴリアテに戦いを挑んだか
2. 若くして豊かに引退する方法
3. なぜできるだけ早く引退するのがいいのか
4. 私はこうやって早期引退を実現した
5. どうしたら早く引退できるか
6. 頭脳のレバレッジで現実を広げる
7. あなたは何が危険だと思うか
8. 仕事量を減らして収入を増やす
9. 金持ちになる一番の近道
10. あなたのプランは遅いか、早いか
11. 豊かに未来を見ることのレバレッジ
12. 一貫性のレバレッジ
13. 童話のレバレッジ
14. 気前よさのレバレッジ
15. 習慣のレバレッジ
16. あなたのお金のレバレッジ
17. 不動産のレバレッジ
18. 紙の資産のレバレッジ
19. Bクワドラント・ビジネスのレバレッジ
20. とっておきのヒント
21. 最終試験
22. やり続けるにはどうしたらいいか
23. 人生の豊かな恵みを受け取る

【成績評価の方法】

授業態度と授業内試験。

事前にテキストを読んできて、議論に参加することが単位取得の条件であるので、意欲のある学生の参加を望む。

【教科書】

ロバート・キヨサキ、シャロン・レクター『金持ち父さんの若くして豊かに引退する方法』筑摩書房、2003年、2200円。

【参考文献】

『金持ち父さん 貧乏父さん』筑摩、2000年、1600円。
『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』筑摩、2001年、1900円。
『金持ち父さんの投資ガイド 入門編』筑摩、2002年、1600円。
『金持ち父さんの投資ガイド 上級編』筑摩、2002年、1900円。
『金持ち父さんの子供はみんな天才』筑摩、2002年、1900円。
『金持ち父さんの予言』筑摩、2004年、1900円。
『金持ち父さんの金持ちになるガイドブック』筑摩、2004年、1000円。
『金持ち父さんのサクセス・ストーリーズ』筑摩、2004年、1500円。
英語ホームページ (<http://www.richdad.com>)。
日本語ホームページ (<http://www.richdad-jp.com/top.html>)。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	阿 部 秀二郎

【講義概要・学習目標】

時代とともに変化してきた経済学にはその時代におけるその時代なりの要請が存在することを歴史的に把握することを目指します。既存の経済学・経営学なども現状を把握する上での道具であるために、将来においては別な道具が必要になるはずで、道具に振り回されないためには、道具の歴史を調査することで可能になります。そして道具がどのように使われたのかを調査するときには大切になってくるのは、対象でもあり道具の利用者でもある人間です。したがって経済学と人間との関係について分析してゆくこととなります。

【講義計画】

2冊のテキストを読んでゆきます。前半はそのうちの1冊である経済学の歴史についての書物を読み進めます。後半は現在の経済学の対象について考察してゆくための書物を読み進めます。

【成績評価の方法】

参加希望者との協議によって決定します。とりあえず私が要求する項目は、本をよく読んでいるか、活発に議論しているか、差別化を図ろうとしているか、です。なお成績評価も最終的には参加希望者との協議によって決定します。

【教科書】

神野直彦著『人間回復の経済学』、岩波新書、2003
間宮陽介著『市場社会の思想史』、中公新書、1999

【参考文献】

必要ときに提示します。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	阿 部 秀二郎

【講義概要・学習目標】

専門的な学習を行う前に、自分の立場や考え方を認識・整理しておく必要があります。専門的な知識に踊らされないようにするためにです。1960年代多くの人がアメリカを焦がれました。そして経済学も同様の方向性にありました。でも今後同じようになるかしら？日本やアジアのロマンティズムに焦がれるようにならないだろうか？アメリカ型の日本経済政策の行方は適当なのか？自分たちはそれを望んでいるのか？考え続けることができるようになることが目標です。

【講義計画】

2冊の本を読みます。前半に読む本は専門的な知識に踊らされないように頑張っている経済学者の書です。後半に読む本はアメリカと日本の経済学の近さについて指摘している書です。読書→問題議論→発展・・・という流れができあがるのが最終的な理想です。

【成績評価の方法】

最初に参加希望者と議論します。私が重要だと思っている項目は、以下のものです。しっかりとテキストを読んでいること、活発に議論に加わること、考えることに勤勉であること。

【教科書】

飯田経夫著『経済学の終わり』, PHP出版, 2000
関岡英之著『拒否できない日本』, 文春新書, 2004

【参考文献】

必要なときに提示します。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4	浦 出 俊 和

【講義概要・学習目標】

「循環型社会」とは、「天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会」とであると定義されている。わが国においては、「家電リサイクル法」をはじめとして、個別の廃棄物・リサイクル法が施行されているが、現実には廃棄物の問題は深刻な状況にある。そこで、本演習では、「循環型社会」実現のために、現在実施されている様々な法制度を取り上げ、その問題点について考えていく。

本演習では、テキストの輪読と報告、およびレポートの作成を通じて、読解力・プレゼンテーション能力・文章作成の向上を図ることを課題とする。さらに、参加者の議論への積極的な参加を重視する。

【講義計画】

前期では、「循環型社会とは何か?」「わが国の現状と問題点」について取り上げる。

後期では、参加者各自の問題関心を取り上げる。

基本的には、共通のテキストを輪読し、分担報告と議論を順番に行ってもらい、その後、レポートを作成してもらう。また、テキスト以外に、ビデオを見たり、適宜必要な文献を読んで、同じく議論を行った後に、レポートを作成してもらう予定である。

詳細については、初回に指示する。

【成績評価の方法】

出席状況、報告内容、レポートに加えて、授業参加への積極性（発言機会・内容等）を加味して総合的に評価する。

【教科書】

吉田文和著『循環型社会―持続可能な未来への経済学―』中公新書2004年

【参考文献】

必要に応じて演習の中で紹介する。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4	大 澤 健

【講義概要・学習目標】

経済学に関する基礎的な文献をゼミ形式で読んでいきます。ゼミ形式の授業に慣れるとともに、「本を読んで理解する」「内容をまとめる」「参加者に理解できるように発表する」「内容について議論する」といったベーシックなコミュニケーション能力をつけることを目標としています。

【講義計画】

今年度はグローバリゼーションに関する本を1年かけて読んでいきます。グローバリゼーションというのは市場の世界化、世界的拡大を表現する言葉ですが、現在の世界の経済で何が起きているのかを理解しながら、経済学についての基礎的な知識の習得を行います。

最初はトーマス・フリードマン著「レクサスとオリーブの木」を読みます。

読了後は受講者のペースと興味関心にあわせてその後のテキストを選定します。

【成績評価の方法】

平素の授業態度によって評価します。ゼミ形式の講義なので、出席を重視します。

【教科書】

トーマス・フリードマン著「レクサスとオリーブの木」草思社

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4	佐々木 和 子

【講義概要・学習目標】

住まいは人が生きるための「器」である。しかし、私たちの国では、その生きるための「器」も経済対策の視点からしかとらえていない。その「器」を私たちのものに取り戻すために、「居住福祉」の視点から考えてみる。

テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。

演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。

【講義計画】

前期

まず、テキストを読んでみよう。

著者の言いたいところを読み取ろう。

決められた字数で内容をまとめられるようにしよう。

後期

テキストの内容を人に伝えるようにしてみよう。

みんなの前でまとめを発表してみよう。

議論を通じて、考えを深めよう。

【成績評価の方法】

出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】

島本慈子『住宅喪失』2005年　ちくま新書

【参考文献】

島本慈子『倒壊』1998年　筑摩書房

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4	佐々木 和 子

【講義概要・学習目標】

「食」について考えたことがありますか。動物が生きていくのに不可欠の食べ物。安全でおいしい食べ物を手に入れるためには、「食」について私たちがまず関心を示すことが必要である。テキストの輪読を通じて、食やそれを生み出す農業について考え直してみたい。テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。

【講義計画】

前期

まず、テキストを読んでみよう。

著者の言いたいところを読み取ろう。

決められた字数で内容をまとめられるようにしよう。

後期

テキストの内容を人に伝えるようにしてみよう。

みんなの前でまとめを発表してみよう。

議論を通じて、考えを深めよう。

【成績評価の方法】

出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】

大江正章『農業という仕事―食と環境を守る』2001年 岩波ジュニア新書

【参考文献】

朝日新聞「食」取材班『あした何を食べますか?』2003年 朝日新聞社

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4	田 村 剛

【講義概要・学習目標】

今日の主流派経済学の基本的な考え方には、すべての主体が利己心に基づき自由に経済活動を行うならば、結果として社会全体の厚生が最大化が達成されるといったものがある。一方でこの考え方において、文化という視点を考慮せずに論理が構築されているという指摘がある。本演習でもこうした視点に立ち、経済と文化の関係、さらには経済に対する文化の役割やその重要性について考えていきたい。

本演習では、テキストの輪読をはじめ、報告・議論、レジュメやレポートの作成といった一連の作業を通じて、読解力や文章作成能力の向上を図ることを課題としている。

【講義計画】

本演習では、基本的に1冊のテキストを完全に理解するまで読むという方向で進める。

基本的な演習形式としては、まずテキストを輪読した後、報告担当者にレジュメを用意してもらい、それに基づいて報告してもらう。次に各出席者に意見を出してもらい、基本的に報告担当者が中心となり、みんなで議論を行う。

【成績評価の方法】

出席状況、報告内容やレポートの出来具合等を考慮して総合的に評価する。

【教科書】

荒井一博著『文化の経済学―日本的システムは悪くない―』文春新書、2000年

【参考文献】

演習時に随時指示する。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4	服 部 容 教

【講義概要・学習目標】

マクロ経済学の基礎を徹底的に学習する。マクロ経済学の基礎となっているIS, LMモデルを完全に理解できるように講義する。

【講義計画】

テキストに沿って各自分担箇所を発表してもらう。必ず報告にはレジュメを作成し、事前に配布することを義務付ける。

【成績評価の方法】

報告の内容、理解度、レポート等を総合的に判断して評価する。

【教科書】

ブランチャール「マクロ経済学」(上) 東洋経済新報社、1999年

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4	松 本 誠

【講義概要・学習目標】

21世紀社会は「国家」が後退し、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。

こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、分権型社会における政治、経済、社会の各分野における新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。

【講義計画】

本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。

1. テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
2. 各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
3. 報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
4. 教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
5. 報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。

【成績評価の方法】

期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【教科書】

田村 明著 「まちづくりの実践」(岩波新書)

神野直彦著 「地域再生の経済学」(中公新書)

【参考文献】

田村 明著 「まちづくりの発想」(岩波新書)

地域情報会議編著 「地域の価値を創る」(時事通信社)

川村健一+小門裕幸著 「サステイナブル・コミュニティ」(学芸出版社)

松本 誠著 「市民が変える明石のまち」(文理閣)

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

経済学とは私たちの日常生活に極めて身近な学問であるにも関わらず、数学と使う、という理由から食わず嫌いをしている人は多いのではないのでしょうか。でも経済学は私たちの一生に就いて回るものなので、自分自身の将来に何がしかの役に立てることが出来るはず。もっと言うならば学問で無駄なものはないのです。

ところが事実、経済学を学ぶ上で数学は切り離すことのできない道具です。その道具を使いこなすためには、それなりの基礎が必要であるとは言ってもありません。すなわち、基礎が十分に出来ていない状態で手に余るような道具を使いこなすのは不可能です。パソコンを初めて買った時に、上手に使いこなせないのと同じことです。

そこでこの演習では、極力数学を使わず経済学の基本的な考え方を学ぶことを目的とします。基礎さえ十分に出来ていれば、数学という道具を使うことも大して怖くなくなるでしょう。

【講義計画】

前期ではまず、入門レベルのテキストを用いて経済学の流れを掴むことを目的とします。

後期ではそれを踏まえたうえで皆さんの理解度を見ながら、前期で用いたものよりも一歩進んだテキストを読み経済学の基礎を固めていきます。

【成績評価の方法】

出席状況、レポート提出を総合的に評価します。

【教科書】

開講時に受講者と相談した上で決定します。

【参考文献】

必要に応じて演習の中で紹介します。

科 目 名			
応用言語学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	橋 内 武

【講義概要・学習目標】

応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら4つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来日本語教師や言語聴覚士などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。

【講義計画】

1. 応用言語学とは何か一言語と方法
2. 言語問題の学一言語障害、言語の消滅、ことばの乱れ、誤訳
3. 異言語教育学教授法、教師・学習者、教材、辞書、評価
4. 学際的言語学ー神経言語学、心理言語学、人類言語学、社会言語学、法言語学、経済言語学など
5. 「ことばの職業」研究ー日本語教師、言語聴覚士、通訳、英語教員

【成績評価の方法】

期末試験による。

【教科書】

山内進（編著）言語教育学入門、大修館書店、2003。

【参考文献】

白畑知彦ほか著 『英語教育用語辞典』 大修館書店 1999
 ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）『外国語教育学大辞典』 大修館書店 1999

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

J生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
音声学・音韻論 (旧英語音声学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	南 條 健 助

【講義概要・学習目標】

音声学 (phonetics) とは、音声を科学的に研究する言語科学 (linguistic sciences) の一分野であり、同時に、あらゆる音声を正確に聞き分け、かつ発音し分けることができる、いわば職人芸 (art) でもある。また、イギリス学派音声学 (British school of phonetics) では、音韻論 (phonology) も音声学の一部であると見做される。

この授業では、イギリス学派の伝統である実践音声学 (practical phonetics) というやり方によって、標準的なアメリカ英語の音声を、主として調音 (articulation) の面から研究する。実践音声学の手法を用いるためには、まず初めに、たとえ日本人であっても、アメリカ人と区別がつかないくらい、アメリカ人そっくりの発音ができる技能を身につけなければならない。授業では、どうすればそういう発音ができるようになるのかを詳しく解説し、そのための音声学訓練 (phonetic training) に多くの時間を割くつもりである。また、そのような訓練と並行して、毎回少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強してゆくことにしたい。

【講義計画】

1. 入門編
2. 強勢とリズム
3. 音調
4. 音のつながりと音変化
5. 子音
6. 母音
7. 発展編

【成績評価の方法】

原則として、定期試験 (80%) と提出課題や小テスト (20%) を総合して評価する。定期試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていないければ解答できない問題を出題する。また、8回以上欠席した者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

【教科書】

開講時までに指定する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

【備考】

<02~04生>

E・S・S・S・W・B・J 生対象は、日本語教員資格科目 (随意) として履修

科 目 名			
会計学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	チヨン ジェ ムン 全 在 紋
02	秋学期	2	
03	秋学期	2	
04	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

〈講義目標〉

「会計」(accounting) は「企業の言語」(language of business) と言われる。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person) は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功 (出世) もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話法を伝授する。

〈学習目標〉

企業の言語の基本的な会話法を身につけるため、以下を学習目標とする。

- ①資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
- ②企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
- ③企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
- ④経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

【講義計画】

テキストの目次は次の通りであるが、進行状況を勘案して講義する。

- 第1章 会計とは?
- 第2章 基本的な会計情報とは?
- 第3章 決算書の情報を分析するには?
- 第4章 税金はどのように計算するのか?
- 第5章 コストと会計情報とはどのように結びつくのか?
- 第6章 経営管理に会計情報をどう役立てるのか?
- 第7章 財務諸表は本当か?
- 第8章 決算書の内容や様式はどのように決まるのか?
- 第9章 会計は職業とどう結びつくのか?

【成績評価の方法】

授業の出席状況、課題 (宿題) の達成状況、および筆記試験の総合点で評価する。

【教科書】

中田信正、徐龍達、小林哲夫 (共編著)
『まなびの入門会計学』(中央経済社)

【参考文献】

参考資料は適宜配布します。

科 目 名			
会計学原理			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	中 村 恒 彦

【講義概要・学習目標】

昨年度は、簿記の誕生から近代会計の成立までの会計史を学習することによって、会計理論について学習しました。本年度は、本格的な会計理論にかかわる教科書を用いて、財務会計の歴史や基本的な理論について学習します。

本年度は、会計理論の歴史、会計学の方法論、現在の会計理論、国際会計と幅広い項目について学習する。学習内容は、非常に高度であるために、ひとつひとつの理論についてゆっくりと学習していく。また、会計学基礎論や商業簿記や財務諸表論などの講義と重複する部分が多いので、関連科目を履修することもお勧めする。

最後に、この講義を通じて、論理的な考え方とは、どういうものかについて理解してほしい。会計学をとわず、論理的な考え方ができないことは、自分の視野を狭くしてしまうこととなる(論理的な考え方に固執することもないが・・・)。少なくとも、会計学者や公認会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感してほしい。

【講義計画】

1. 会計理論の発展 (第一章)
2. 会計情報の利用に関する研究方法と理論(第二章)
3. 利益概念 (第三章)
4. 財務諸表Ⅰ (第四章)
5. 財務諸表Ⅱ (第五章)
6. 国際会計 (第六章)

【成績評価の方法】

期末試験 (100点) + 出席点・レポートなど (60点)

【教科書】

教科書: 加古宜士+大塚宗春 [2004]『財務会計の理論と応用』中央経済社。第一章から第六章まで。

原著: Schroeder, R. G., M. W. Clark, and J. M. Cathey[2001] "Financial Accounting Theory and Analysis: Text Reading Cases(7 th edition)" John Wiley & Sons Inc.

※購入の必要はない。

【参考文献】

友岡賛 [1996]『歴史にふれる会計学』有斐閣アルマ

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
介護演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	8月集中	2	川 井 太加子 佐 瀬 美恵子
02	8月集中	2	

【講義概要・学習目標】

介護概論を受けて、介護の理論と技術を実践的に展開する方法について学習する。加齢や心身の障害をもちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるか、尊厳や個性を尊重した援助を行うことができるか、予防的な視点をもって援助を行うことができるか、さらには生涯にわたって成長・発達し続ける存在としての人をどのように援助できるか、具体的事例を用いて学びあう。

【講義計画】

介護を必要とする人々への援助に必要な技術・方法について考える。小グループに分かれ、事例を用いて具体的な援助について検討し、理解を深める。

1. 介護を必要とする人々のアセスメント
2. ケアプランについて
施設におけるケアプラン
在宅生活を支えるケアプラン
3. 具体的な援助方法について
4. 評価

【成績評価の方法】

レポートと平常点 (出席率および演習への参加状況) などを総合して評価する。

【教科書】

社会福祉士養成講座 14 介護概論 中央法規

【参考文献】

- ・小宮 英美著「痴呆性高齢者ケアグループホームで立ち直る人々」中公新書
- ・講義の中で適宜紹介する

科 目 名			
介護概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	川 井 太加子
02	春学期	2	佐 瀬 美恵子

【講義概要・学習目標】

1. 介護の役割を理解するとともに、看護・医療との関係について理解する。
2. 具体的な介助方法の実際について演習形式で学ぶ。
3. 高齢者の身体的および精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に対処できる能力を養う。

【講義計画】

1. オリエンテーション
2. 介護の機能および範囲
3. 加齢に伴う心身の変化
4. 高齢者体験・車椅子体験などの演習
5. 介護専門職と保健・医療専門職との連携
6. 介護技法
 - 1) 身体の自然な動き
 - 2) 食事
 - 3) 排泄
 - 4) 移動
7. コミュニケーション技法
8. 痴呆高齢者の理解と介護
9. ターミナルケア

【成績評価の方法】

出席状況とレポートの内容から総合的に評価する。

【教科書】

新版社会福祉士養成講座 1 4 介護概論 （中央法規）

科 目 名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	山 崎 充 彦

【講義概要・学習目標】

「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけで以てこと足りるものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々にも変わることも稀ではない。この講義では、まず、担当者が、「歴史的なものの見方とは何か」について述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。

【講義計画】

・担当者の講義

総論：

- 1、歴史研究の持つ問題性
- 2、ヨーロッパ中心史観の問題性
- 3、現代史をどう解釈するか。
- 4、歴史学における「政治的なもの」

各論：

- 5、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義の歴史
- 6、ナチのユダヤ人政策の背景とその実態
- 7、ユダヤ人大量虐殺をめぐる戦後の論議

・ビデオ上映：

歴史教育、ナチズムなどに関するビデオを複数回観てもらう。

【成績評価の方法】

成績評価は、定期試験のみで行う。

この講義では、出欠は一切とらない。従って、出席カード配布だけを目当てに教室に来て時間も労力の無駄に終わるであろう。

授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。

近年、受講者数の増加に伴い、受講態度の悪化傾向も顕著となっており、担当者としては、極めて憂慮すべき事態であると考えている。

講義を真摯に聴こうとする者のみ、登録・履修され、教室に来るように真剣に望む。

受講態度が悪い場合、退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。

【教科書】

特定の教科書は使用しない。

【参考文献】

授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。

- 1、栗原優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策――ホロコーストの起源と実態』、ミネルヴァ書房
- 2、西岡昌紀、『アウシュウッツ「ガス室」の真実』、日新報道
- 3、ハーバーマス、ノルテ他著、『過ぎ去ろうとしない過去、ナチズムとドイツ歴史家論争』、人文書院

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	坂 昌 樹

【講義概要・学習目標】

これは教職を中心にした授業です。

社会科教育をおこなううえで必要な考え方や教え方に重点をおいた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思っています。

授業では、教育実習にあわせた高校用教科書を使つての模擬授業や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論などをおこないます。おもに教員免許の取得をめざす学生の参加が望まれますが、授業へ積極的に参加する気のある方ならどなたでも歓迎します。

学ぶテーマとしては西洋史をおもな対象とし、近代化の歪み（排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の社会状況にも言及しますが、これらの問題の歴史的背景の考察や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。

【講義計画】

I. 導入：外国史の課題

II. 教育実習に向けて

(1) 模擬授業

高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討

III. 過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用）

(1) 社会的マイナリティーの歴史

ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者

(2) 歴史教育を考える

歴史教科書と歴史観の問題

(状況によっては、IIとIIIを入れ替えるかもしれません。)

【成績評価の方法】

出席を重視します。さらに授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価します。

【教科書】

指定しません。

【参考文献】

『詳説 世界史』（高校用世界史教科書B）山川出版社

連絡先：（研究室）アンデレ館 7 階725室

（tel）0725-54-3131（内線）3725

（Email）ban@andrew.ac.jp

面談：在室中は、随時可能です。

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4	カ 何 イ 為

【講義概要・学習目標】

社会主義市場経済移行中の中国経済・社会環境を反映し、現代中国事情への理解に有益な初歩的な中国語文献の講読により、中国語の読解力を高めながら、中国経済・社会に対する理解を深めるという一石二鳥の効果を図る。

【講義計画】

通年講義で30ページを読み、1 学期15ページ程度、1 講義あたり1－2 ページ程度。

【成績評価の方法】

平常点

【教科書】

使用しない。ただし、講義の際に随時プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて参考文献を指示する。

【備考】

予備登録科目(先着登録)